

青銅鏡の鋸齒文が教える邪馬台国の位置と その終焉時期

10506 前 義治

10512 田岸昭宣

要旨

前回の 2024 年 8 月 21 日の論文「青銅鏡の鋸齒文が教える日本の古代史」では、銅鏡には鋸齒文の形状が合同な同環鏡があり、それら同士は基本的に同一作者と考えられ、各鏡の同環鏡を探索すれば、その鏡の出自を明らかにすることができること、そして、国内出土の三角縁神獸鏡はすべて渡来工人の陳是・陳氏の大和での作品であることを明らかにした。そして、その時期は景初 3 年 (239 年) をはじめとする時期で、それは卑弥呼が魏に遣使した時期と同時であること、そして魏志倭人伝によれば、卑弥呼の邪馬台国は内憂外患に悩まされており、銅鏡を全国に鎮撫のために配布した大和政権 (大和朝廷) と国情が大きく異なるため、両国はまったく別の国であることを明らかにした。

そうであれば、邪馬台国は大和以外のどこにあったのかが問題となる。大和朝廷がすでに大和にあって全国に鎮撫のために三角縁神獸鏡を配布したのであれば、敵対した邪馬台国は、大和から遠く、かつ大陸と通交の便のいい九州ということになる。そして、大和朝廷が鎮撫のために配布した三角縁神獸鏡の出していない九州の古墳の地域が邪馬台国であることになる。そこで本論文では、九州の古墳出土鏡を調べ、出土した三角縁神獸鏡が大和朝廷から配布された陳是・陳氏作品であること、三角縁神獸鏡は、九州でも広範囲に分布するが、わずか江田船山古墳で三角縁神獸鏡が見つからず、かつ地理的にも大陸との通行に便利であることから、江田船山古墳付近 (熊本県玉名郡) が邪馬台国の有力な候補地であることを明らかにした。吉野カレ遺跡は、最終的に邪馬台国が滅亡させられたときの大和朝廷側の前進基地であったと考えられる。

陳是・陳氏の後、泰始 9 年 (273 年) 銘鏡の作者である張氏・張是らが来日し、三角縁神獸鏡を作り続けたが、彼らの在任中に邪馬台国は大和朝廷の手によって滅亡した。それは 266 年の壺与の晋への遣使の後で、張氏らの在任中の 290 年ごろまでの間と考えられる。張氏・張是の作品は全国に配布する必要が次第になくなり、供給過剰気味となり、地元豪族に配布され椿井大塚山古墳や黒塚古墳に大量に埋蔵されるようになるからである。

1 まえがき

著書らは三角縁神獸鏡を含む国内出土銅鏡や中国出土銅鏡について、今まで見過ぎされてきた鋸齒文を測定し、それらの中に鋸齒環と鋸齒の三角形が幾何学的に合同である鏡同士があることを発見した。

これらを同環鏡と名づけたが、それらの鏡同士は基本的には同一工人・同一工房の作と考えられる。一方に作者銘が入っていれば、もう片方はその作者であることがわかる。これは鏡の DNA ともいうべきものである。この同環鏡を多くの鏡のグループについて探索し、三角縁神獸鏡は渡来工人の陳是・陳氏が日本の大和で、ときの大和朝廷の支援を受けて、大々的に製作したものであることを明らかにした。そして大和朝廷は全国に鎮撫のために配布したのである。それは、2世紀と推定される神武東征の後、九州方面で諸国の離反が起こり、その鎮圧のための味方作りが必要であったためである。鏡の銘文も贈られる側の家運の隆盛を願うもので、大和朝廷の権威を示す強圧的なものではなく、あくまでも低姿勢である。その九州方面の離反勢力の主だった国が邪馬台国であったのである。大和で景初3年(239年)銘鏡を作り、陳是・陳氏が本格的に三角縁神獸鏡などの銅鏡を作り始めたまさにその年に卑弥呼は魏に援助を求めて遣使したのである。魏は卑弥呼に銅鏡100枚などの下賜品を与えたとされる。また魏志倭人伝によれば、使いを邪馬台国に送っている。その見分記が魏志倭人伝であるが、その倭人伝には、邪馬台国が周りの国から圧迫を受けており、内紛もあるように記述している。その窮状ともいえる状況は銅鏡を大々的に製作し諸国に配布している状況とは大きく異なるのである。すなわち、邪馬台国は大和にあった政権すなわち大和朝廷とは全く別物の国であることになる。ここまでの話は、本欄の前報「青銅鏡の鋸齒文が教える日本の古代史」を参照していただきたい。

このように考えれば、邪馬台国畿内説はまったくの論外となるが、それでは大和以外のどこにあるかということになる。

魏志倭人伝の行程はあてにならないが、全体的な雰囲気は九州の北岸には邪馬台国とは別の国があり、それから少し内陸に入ったところに邪馬台国があるように感じられる。しかし、それでは決め手にならない。

この現状を打開するために、次のような推論を行った。

1. 大和に大和朝廷があったのであるから、それに敵対する邪馬台国がその近くにあったとは考えられない。この仮定によって、本州・四国が除外される。
2. 邪馬台国は魏と通交したのであるから、海上の便の良いところにあったはずである。また大和朝廷派と邪馬台国があった状況で日本国内を陸路で遠路通行できるとは考えられない。これらの条件を満足するのは九州以外には考えられない。
3. 九州内部であるとすればどこかわかる方法はないか。大和朝廷は味方作りのための三角縁神獸鏡を含む銅鏡の贈呈作戦を行った。三角縁神獸鏡の全国の分布状態は分かっている。そして、前述の候補地の九州でも三角縁神獸鏡は発見されている。大和朝廷は九州にも三角縁神獸鏡を贈り、邪馬台国包囲作戦を行ったのである。したがって、三角縁神獸鏡が見つからない空白域があればそこが邪馬台国であることになる。
4. ここまで考えれば、もう答えが出てしまうのであるが、三角縁神獸鏡が出ていない古墳は熊本県の江田船山古墳である。したがって、邪馬台国は江田船山古墳の区域であることになる。
5. そのためには本論文では、江田船山古墳鏡が鋸齒文においても、中国製であること、さらに九州内の他の古墳で見ついている三角縁神獸鏡が日本各地で見ついている三角縁神獸鏡と違いのいない大和朝廷製のものであることを確認する必要があることになる。

これらの推論の物的証拠となる江田船山鏡と九州の古墳鏡の同環鏡の探索の結果を以下に報告する。

2 江田船山鏡の同環鏡

江田船山古墳は三角縁神獣鏡が出ない古墳であるとどこかの文献で読んだ記憶があるが、それを確認するために、改めて江田船山古墳出土鏡の同環鏡を調査した。

江田船山古墳は熊本県玉名郡和水町（旧菊水町）にある古墳である。

それらは以下のものである。（頭の数字は当方の通し番号）

112 江田船山画像鏡（鏡径 221 mm）

134 江田船山画文帯対置式神獣鏡（鏡径 200 mm）

192 江田船山獣文帯鏡（鏡径 178 mm）（135 と同じ）

194 江田船山環状乳神獣鏡（鏡径 148 mm）、

195 江田船山同向式神獣鏡（鏡径 209 mm）、

196 江田船山獣形鏡（鏡径 89 mm）

これらの鏡はランダムに採取されたため、江田船山鏡出土鏡のすべてを集めたとは限らないので、現在の時点で再確認することとした。

ネットの『国宝 - 考古 江田船山古墳出土品「東京国立博物館」』に

神人車馬画像鏡 1 面、画文帯神獣鏡 3 面、獣帯鏡 1 面、変形 4 獣鏡 1 面（計 6 面）と出ている。

下垣仁志著 日本列島出土鏡集成 同成社 2016 年 p442 にもそのように出ている。

計 6 面であるので、上記の調査した鏡で江田船山出土鏡のすべてを調べたことが判明した。

したがって、以下にそれらの検討結果を述べる。

江田船山古墳は、三角縁神獣鏡が出土していない古墳ということ、どこかで読んだ気がするが確かでない。以下 6 面それぞれの同環鏡を調べた結果を記す。

112 江田船山画像鏡の同環鏡

表 2-1 に示したように、驚くことに、112 江田船山画像鏡には同比鏡（環径と形状比が同じ）として 103 奈良佐味田宝塚家屋文鏡（鏡径 229 mm）があるのみである。それは環径が大きいのに、底辺長小さいという製作に面倒な特性を有しているためである。そのなかで 112 が 103 と同様に形状比と底辺長が 2 付近に集まる一部の中国鏡特有の特性を有している。112 は中国製である。（日本列島出土鏡集成によれば、112 は成氏作神人車馬画像鏡とある）

（表 2-1 の出土地の空欄は国内出土を意味する。以下同じ）

表 2-1 112 江田船山画像鏡（鏡径 221 mm）の同数鏡

112 江田船山画像鏡（鏡径 221 mm）の同数鏡（環径 193 mm）			
通し番号	略称	鏡径 (mm)	出土地

103	奈良佐味田宝塚家屋文鏡	229 mm	
-----	-------------	--------	--

112 の具体的データを以下に示した。

(112, 103)

103 奈良佐味田宝塚家屋文鏡（鏡径 229 mm）が同環である。

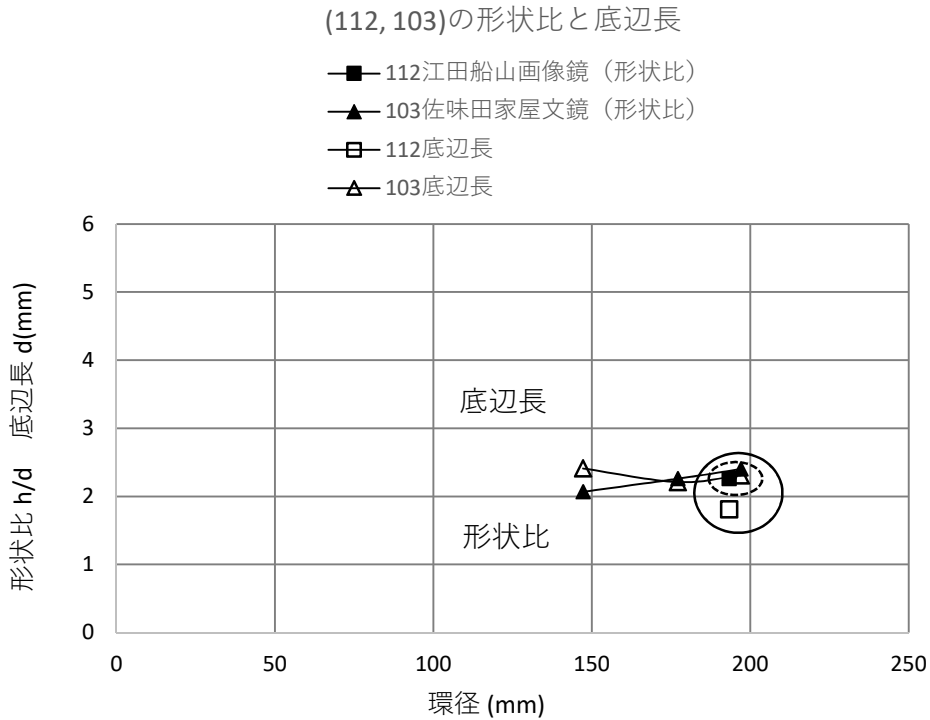


図 2-1 (112, 103)の形状比と底辺長

134 江田船山画文帯対置式神獸鏡の同環鏡

134 の同環鏡と同数鏡を表 2-2 及び 2-3 に示した。

134 は形状比と底辺長が 2 付近に集まる一部の中国鏡の特性を有している 113 黄金塚画文帯同向式神獸鏡と 229 京都庵寺山対置式神獸文鏡と同環である。

したがって 134 は中国鏡である。（日本列島出土鏡集成によれば 134 は青羊作画文帯対置式神獸鏡とある。青蓋作品なのである。）

ふたつの鏡の同環となる鋸歯環を下図に示した。同一縮尺の二つの鏡を、中心をそろえて縦に並べる。二つの中心を結ぶ線を一辺とする長方形を描く。同環である鋸歯環に接する二つの頂点がそれぞれの鏡の同環（同数）同士の鋸歯環を示す。（以下同じ）



103 奈良佐味田宝塚家屋文鏡（鏡径 229 mm）



112 江田船山画像鏡（鏡径 221 mm）

表 2-2 134 江田船山画文帯対置式神獸鏡（鏡径 200 mm）の同環鏡

134 江田船山画文帯対置式神獸鏡（鏡径 200 mm）の同環鏡（環径 143mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
104	貝吹山ダ龍鏡	227	143	
113	黄金塚画文帯同向式神獸鏡	187	143	
220	兵庫よせわ三角縁画文帯対置式神 獸鏡	201	143	
229	京都庵寺山対置式神獸文鏡	167	143	

表 2-3 134 江田船山画文帯対置式神獸鏡（鏡径 200 mm）の同数鏡

134 江田船山画文帯対置式神獸鏡（鏡径 200 mm）の同数鏡（環径 143mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
345	黒塚 10 号三角縁 3 神 4 獸鏡	218	143	

134 の具体的データを以下に示した。

(134,113)

113 黄金塚画文帯同向式神獸鏡が同環である。113 は第 1 環で形状比と底辺長が 2 付近に集まるとい
一部中国鏡特有の特性を有しており、中国鏡である。それと同環の 134 は中国鏡である。

(134, 113)の形状比と底辺長

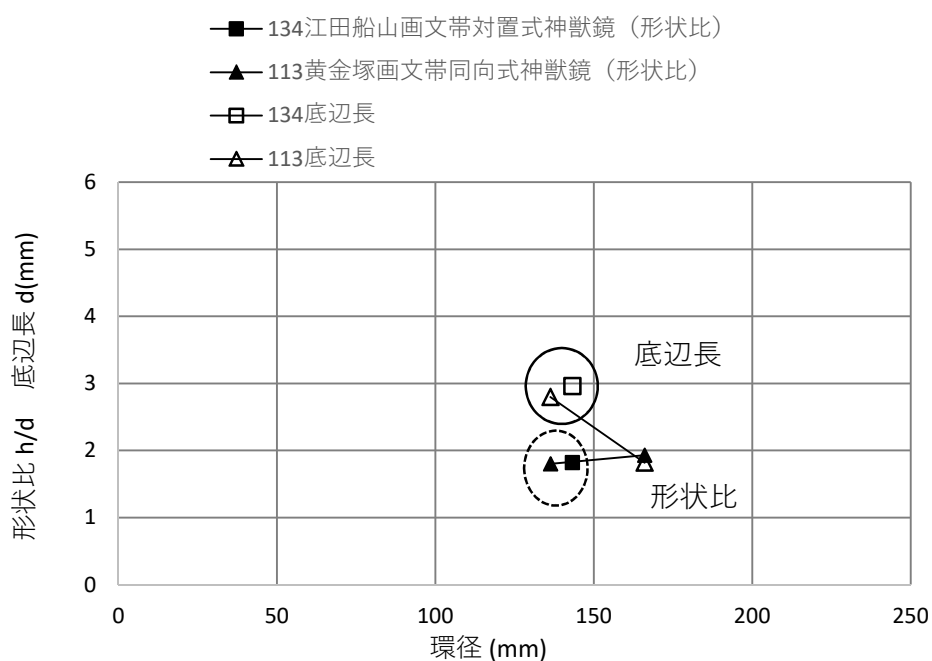


図 2-2 (134, 113)の形状比と底辺長



113 黄金塚画文帯同向式神獸鏡（鏡径 187 mm）



134 江田船山画文帯対置式神獸鏡（鏡径 200 mm）

192 江田船山獣文帯鏡の同環鏡

192 江田船山獣文帯神獣鏡（鏡径 178 mm）の同環鏡は 104 貝吹山ダ龍鏡と 171 石氏盤龍鏡の 2 面と九州出土鏡 3 面であった。171 石氏作盤龍鏡は浙江省上虞県出土の 80 年代の鏡である。

104 貝吹山ダ龍鏡も 192 江田船山獣文帯神獣鏡も 171 石氏盤龍鏡をもとに中国で作られたものである。

ところが、通し番号 375 以降の九州鏡では、192 の同環鏡が立て続けに見つかったのである。

それが、375、377、378 である。377 宮崎日向市富高 2 号と 378 宮崎市陣ヶ平 4 獣鏡は中国鏡らしいので、同環で問題はないが、375 は三角縁神獣鏡であるので、同環であるのはおかしい。陳是が同数鏡の 100 景初 4 年銘福知山広峯陳是作斜縁盤龍鏡で使った 131 mm の環径の形状比を小さくしたのが 375 でその結果形状比が 192 と偶然同程度となったと考えられる。

192 は中国製である。（日本列島出土鏡集成によれば獣文帯浮彫式獣帯鏡とある）

表 2-4 192 江田船山獣文帯神獣鏡（鏡径 178 mm）の同環鏡

192 江田船山獣文帯神獣鏡（鏡径 178 mm）の同環鏡（環径 131,73,57mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
104	貝吹山ダ龍鏡	227	131	
171	浙江省上虞県石氏盤龍鏡	150	131	中国
375	福岡原口三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	219	131	
377	宮崎日向市富高 2 号	118	73	
378	宮崎市陣ヶ平 4 獣鏡	109	57	

表 2-5 192 江田船山獣文帯神獣鏡（鏡径 178 mm）の同数鏡

192 江田船山獣文帯神獣鏡（鏡径 178 mm）の同数鏡（環径 131,73,57mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
100	景初 4 年銘福知山広峯陳是作斜縁盤龍鏡	168	131	

192 の具体的データを以下に示した。

(192,104)

104 貝吹山ダ龍鏡が同環である。104 の形状比が直線となった。そこまで工人は考えたのであろうか。

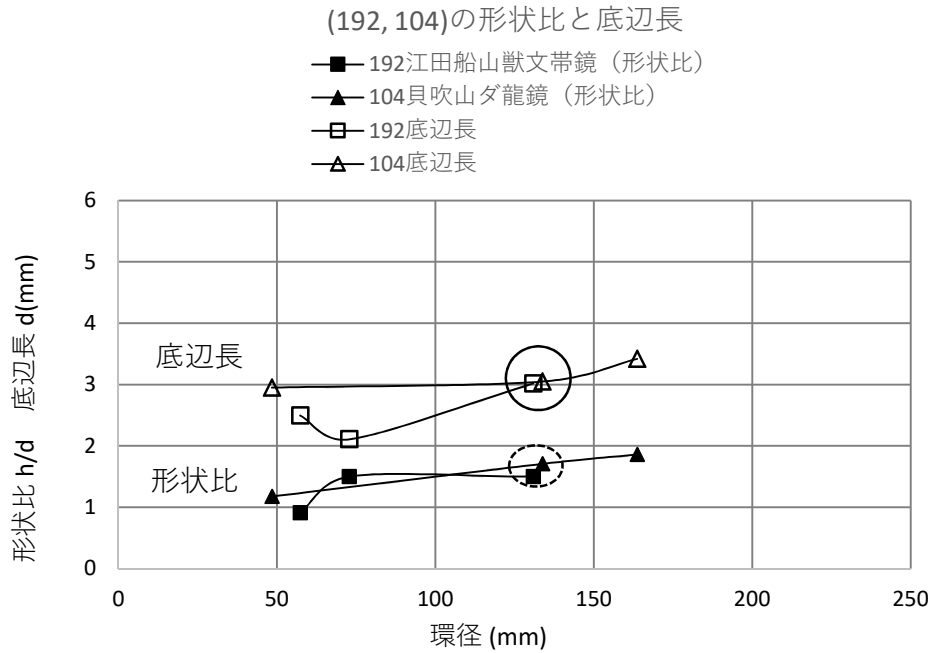


図 2-3 (192, 104)の形状比と底辺長

(192,171)

171 浙江省上虞県石氏盤龍鏡 (80 年代) という古い中国鏡が同環である。192 もその当時のものか。

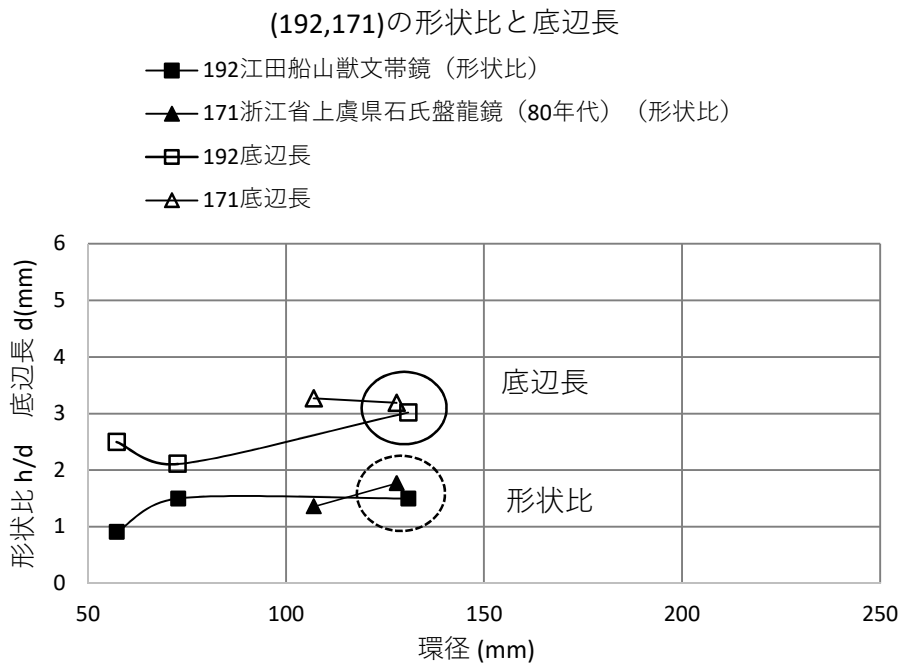
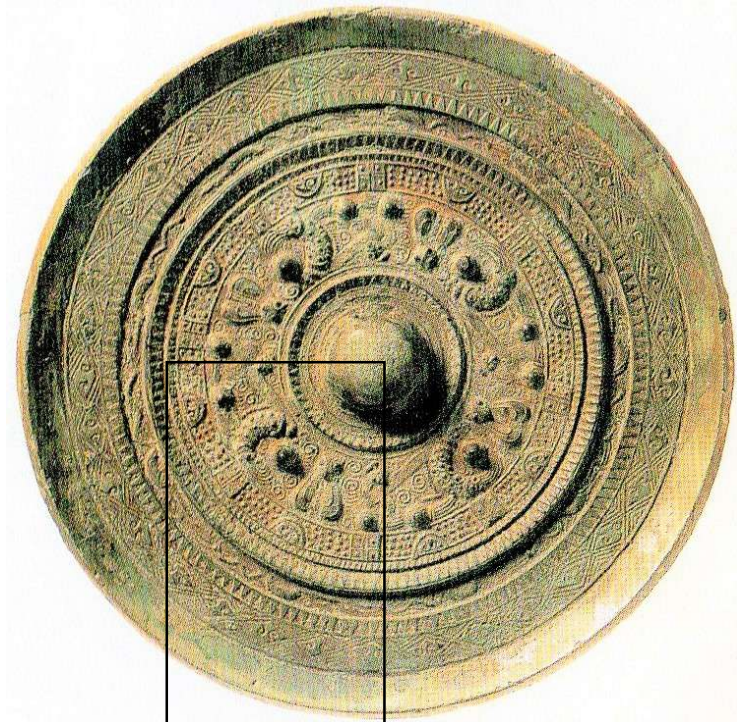


図 2-4 (192, 171)の形状比と底辺長



104 貝吹山ダ龍鏡 (鏡径 227 mm)



192 江田船山獸文帯鏡 (鏡径 178 mm)

(192, 375)

375 が同環である。

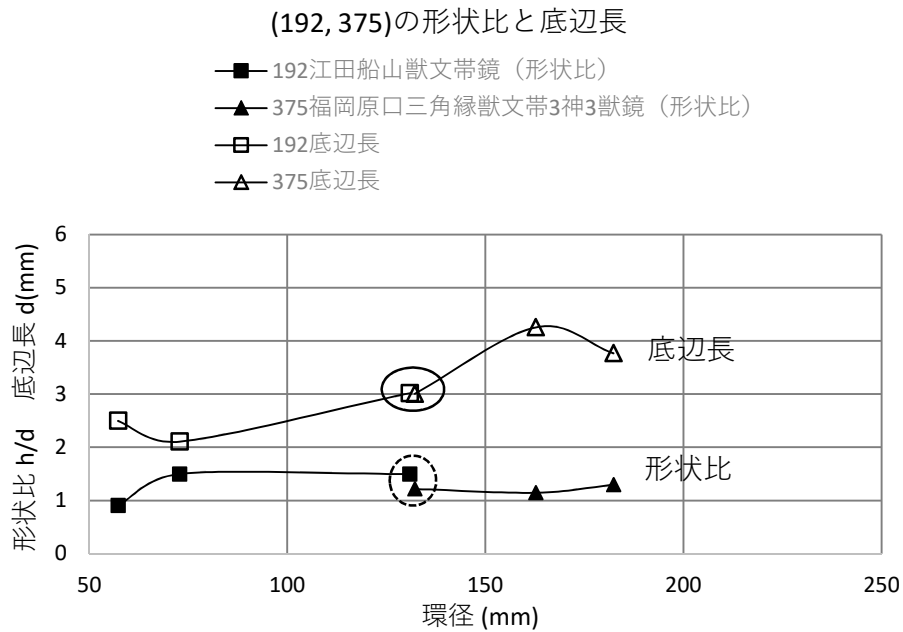


図 2-5 (192, 375)の形状比と底辺長

194 江田船山環状乳神獣鏡の同環鏡

194 の同環鏡は 106 三重保子里ダ龍鏡と中国出土の 171 石氏作盤龍鏡と 289 国分茶臼塚青蓋作銘盤龍鏡のみであった。

194 は 171 や 289 のように古い時代の中国鏡である。(日本列島出土鏡集成によれば画文帯環状乳 4 神 4 獣鏡とある)

表 2-6 194 江田船山環状乳神獣鏡 (鏡径 148 mm) の同環鏡

194 江田船山環状乳神獣鏡 (鏡径 148 mm) の同環鏡 (環径 103 mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
106	三重保子里ダ龍鏡	139	103	国内
171	石氏作盤龍鏡 (上虞県出土 80 年代の作)	150	103	中国
289	青蓋作銘国分茶臼塚盤龍鏡	139	103	国内

194 の具体的データを以下に示した。

(194,106)

106 三重保子里夕龍鏡が同環である。

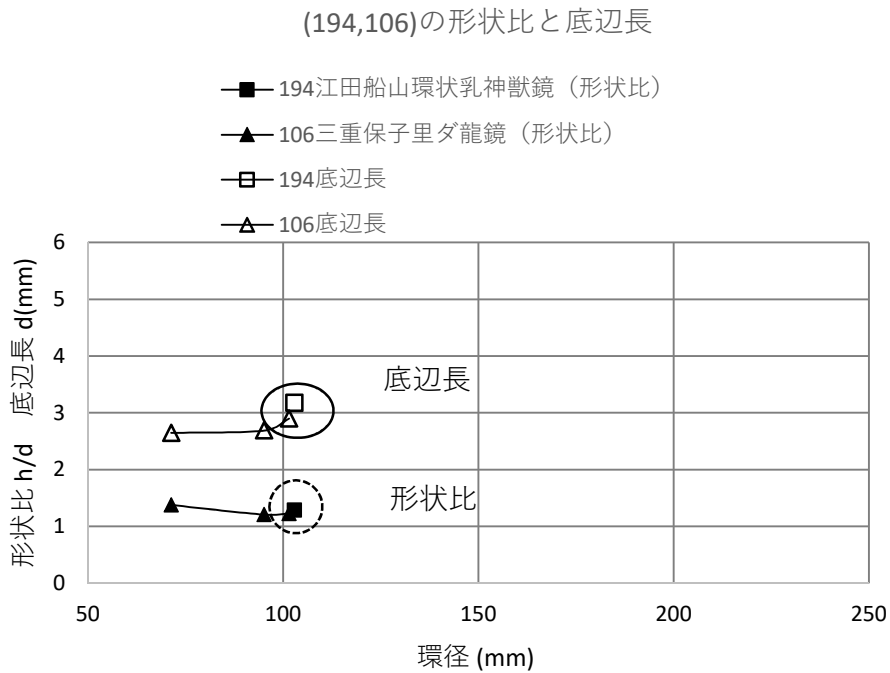


図 2-6 (194, 106)の形状比と底辺長

(194,171)

中国出土の 171 石氏 (80 年代) 盤龍鏡が同環である。石氏は西暦 80 年ごろの人である。こんな古い鏡と同環なのである。

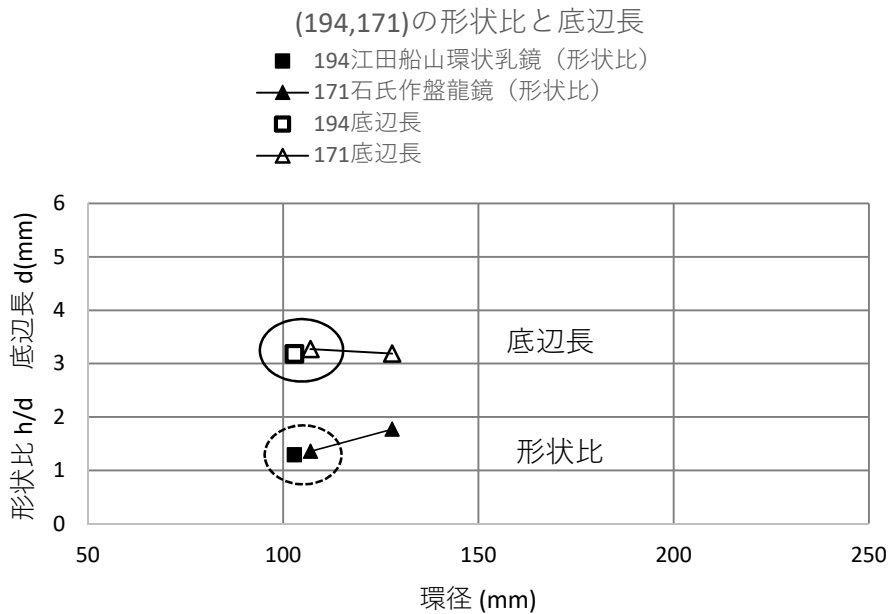


図 2-7 (194, 171)の形状比と底辺長



106 三重保子里夕龍鏡（鏡徑 139 mm）



194 江田船山環狀乳神獸鏡（鏡徑 148 mm）

(194,289)

289 国分茶臼塚盤龍鏡がほぼ同環である。289 は青蓋作銘があり、中国鏡である。

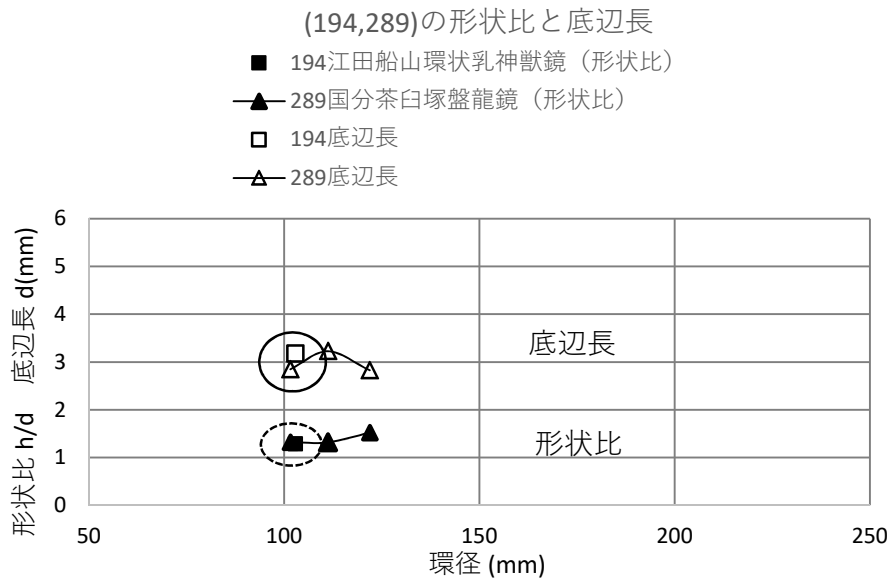


図 2-8 (194, 289)の形状比と底辺長

195 江田船山同向式神獸鏡の同環鏡

195 も他の江田船山鏡と同じく同環鏡も同数鏡も少ない。

同環鏡に三角縁神獸鏡も中国鏡出土鏡もない。同環鏡の 217 沖ノ島方形帯方格規矩鏡の L 字が右曲がりであるので、217 は中国製と判断され、それと同環の 195 は中国製となる。

333 西求女塚 11 号画文帯環状乳神獸鏡も画文帯環状乳鏡であるので中国鏡である。

同数鏡に 69 三重東出三角縁 3 神 2 獸鏡の三角縁神獸鏡がある。陳是が 228 や 233 に倣ったのであろう。

(日本列島出土鏡集成によれば 195 は画文帯同向式神獸鏡とある)

表 2-7 195 江田船山同向式神獸鏡 (鏡径 209 mm) の同環鏡

195 江田船山同向式神獸鏡 (鏡径 209 mm) の同環鏡 (環径 160 mm、124 mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
197	東之宮斜縁同向式神獸鏡	211	160	すべて国内
217	沖ノ島方形帯方格規矩鏡	262	160	
232	宮崎持田 25 号墳火鏡銘 4 獸鏡	145	124	
333	西求女塚 11 号画文帯環状乳神獸鏡	171	124	

表 2-8 195 江田船山同向式神獸鏡（鏡径 209 mm）の同数鏡

195 江田船山同向式神獸鏡（鏡径 209 mm）の同数鏡（環径 160 mm、124 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
69	三重東出三角縁 3 神 2 獸鏡	233	160	すべて国内
187	朝日谷 2 号墳 2 号鏡	152	124	
228	千葉祇園大塚山画文帯仏獣鏡	304	160	
233	奈良平林交互式神獸鏡	215	160	

195 の具体的データを以下に示した。

(195,217)

217 沖ノ島方形帯方格規矩鏡が一致の良い同環である。

217 の L 字は 128 紫金山「尚方作」方格規矩 4 神鏡や 165 佐賀桜馬場「尚方作」方格規矩 4 神鏡と同じ右曲がりであるので、217 は中国製である。この 217 と同環の 195 は中国製である。

(195,217)の形状比と底辺長

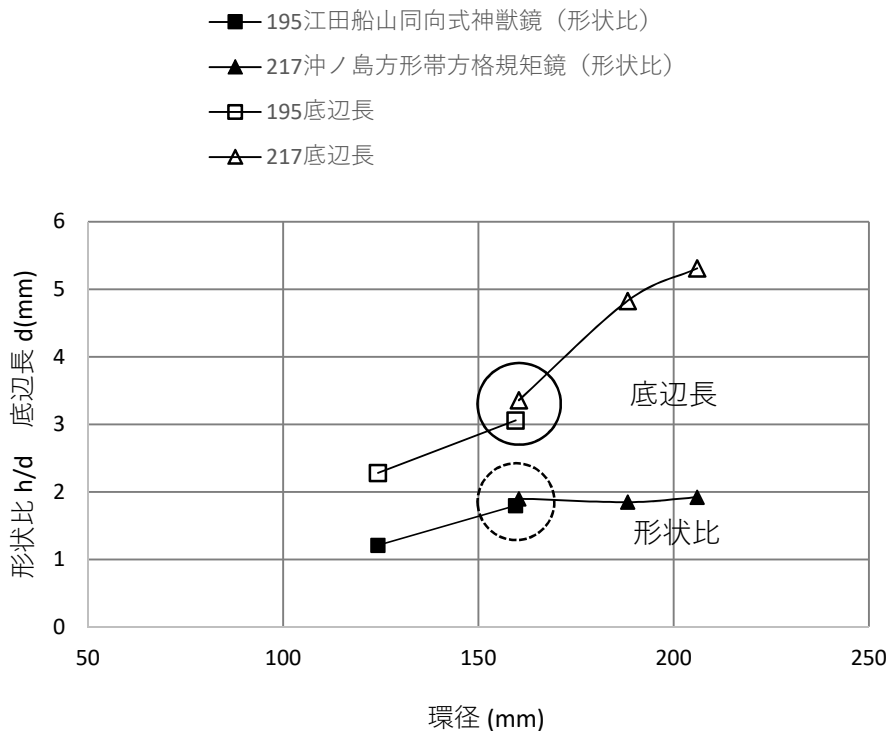


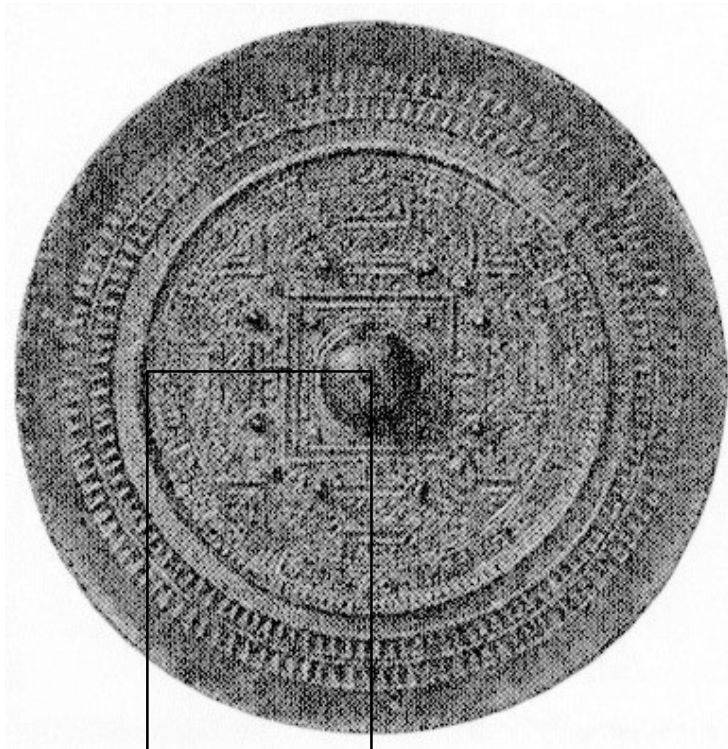
図 2-9 (195, 217)の形状比と底辺長



289 青蓋作銘国分茶臼塚盤龍鏡（鏡径 139 mm）



194 江田船山環状乳神獸鏡（鏡径 148 mm）



217 沖ノ島方形帯方格規矩鏡（鏡径 262 mm）



195 江田船山同向式神獸鏡（鏡径 209 mm）

(195,232)

232 宮崎持田 25 号墳火鏡銘 4 獣鏡がほぼ同環である。

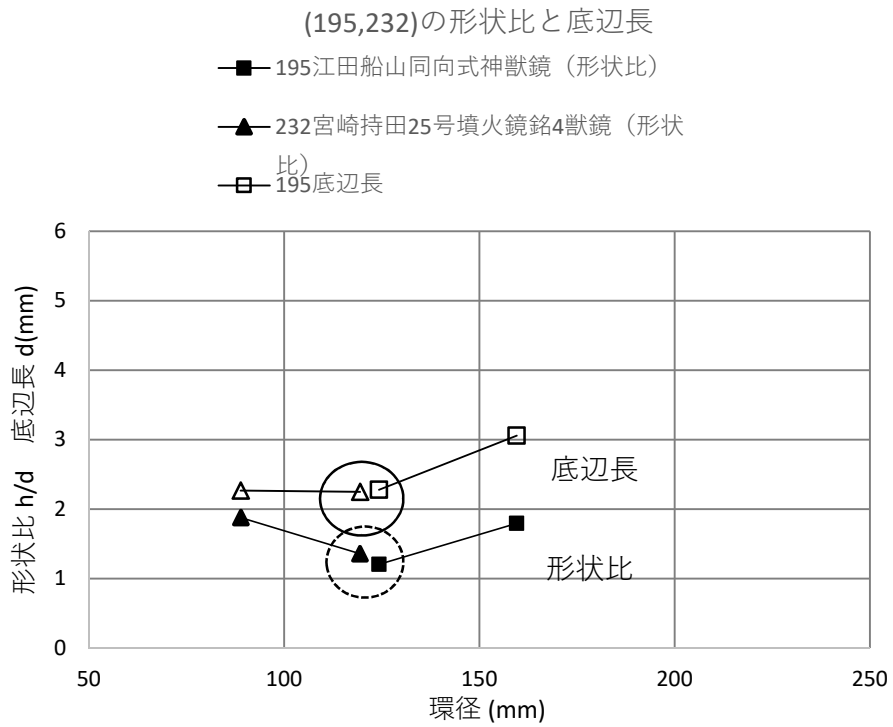
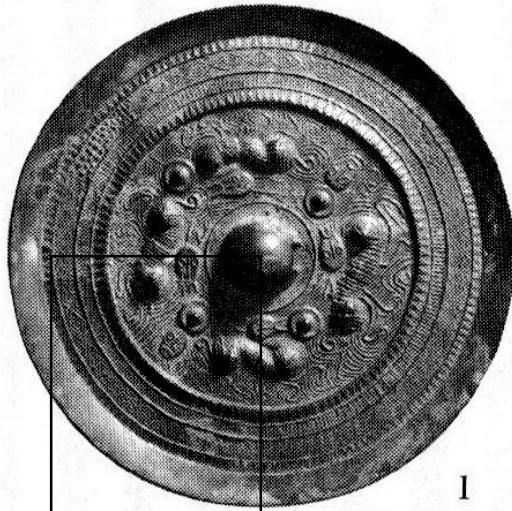


図 2-10 (195, 232)の形状比と底辺長



232 宮崎持田 25 号墳火鏡銘 4 獣鏡（鏡径 145 mm）



195 江田船山同向式神獣鏡（鏡径 209 mm）

196 江田船山獣形鏡の同環鏡

196 の同環鏡は 378 宮崎市陣ヶ平 4 獣鏡のみであった。196 と 378 は九州地方に輸入され分散したと思われる。（日本列島出土鏡集成によれば 4 獣鏡とある）

表 2-9 196 江田船山獸形鏡（鏡径 89 mm）の同環鏡

196 江田船山獸形鏡（鏡径 89 mm）の同環鏡（環径 68、51 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
378	宮崎市陣ヶ平 4 獸鏡	109	68	

同数鏡を下表に示した。196 は環径が小さいので、同数鏡は 2 面しかなかった。中国鏡の 254 と同数であるので、196 は中国鏡である。

表 2-10 196 江田船山獸形鏡（鏡径 89 mm）の同数鏡

196 江田船山獸形鏡（鏡径 89 mm）の同数鏡（環径 68、51 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
254	192 大平元年（256 年）同向式神獸鏡	98	68	中国
284	柳井茶臼山ダ龍鏡	450	68	国内

196 の具体的なデータを以下に示した。

(196, 378)

378 宮崎陣ヶ平 4 獸鏡が同環である。

(196, 378)の形状比と底辺長

- 196江田船山獸形鏡（形状比）
- ▲ 378宮崎陣ヶ平4獸鏡（形状比）
- 196底辺長
- △ 378底辺長

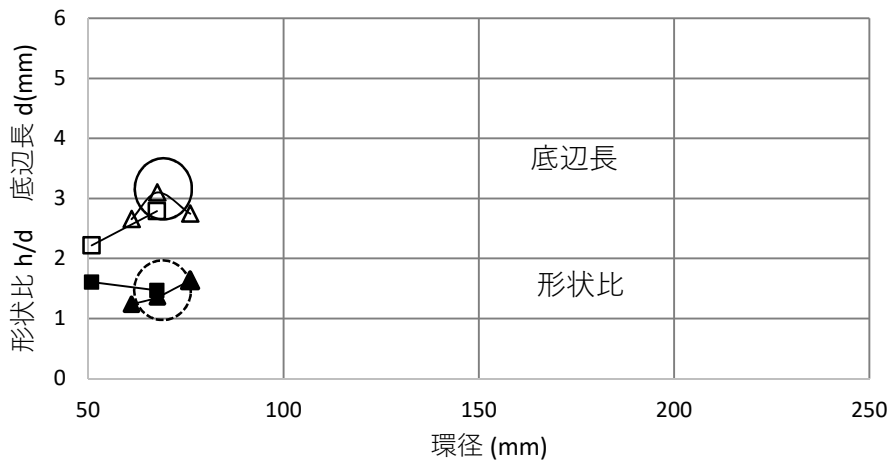


図 2-11 (196, 378)の形状比と底辺長



378 宮崎陣ヶ平4獣鏡 (鏡径 109 mm)



196 江田船山獣形鏡 (鏡径 89 mm)

江田船山鏡のまとめ

以上の江田船山鏡のまとめを下表に示した。出土鏡のすべて6面が中国鏡である。江田船山古墳は三角縁神獣鏡が出ない古墳であることが確認された。

表 2-11 江田船山鏡のまとめ

通し番号	鏡の名称	鏡径 (mm)	特徴	本論での判定
112	江田船山画像鏡	221	112 は形状比と底辺長が2付近に集まる一部の中国鏡特有の性質を有している したがって112 は中国製である。 (日本列島出土鏡集成によれば、成氏作とある)	中国製
134	江田船山対置式神獣鏡	200	134 は形状比と底辺長が2付近に集まる一部の中国鏡の特性を有している 113 黄金塚画文帯同向式神獣鏡と229 京都庵寺山対置式神獣鏡と同環である。 したがって134 は中国鏡である。 (日本列島出土鏡集成によれば青羊作とある)	中国製
192	江田船山獣文帯鏡	178	171 石氏盤龍鏡と同環であるので中国製である。 三角縁神獣鏡の同環鏡なし。	中国製

194	江田船山環状乳 神獸鏡	148	中国出土の 171 石 氏作盤龍鏡と 289 国分茶臼塚青蓋作 銘盤龍鏡と同環で あるので中国製で ある。	中国製
195	江田船山同向式 神獸鏡	209	L 字が中国風の右 曲がりである 217 沖ノ島方形帯方格 規矩鏡と同環であ るので中国製であ る。	中国製
196	江田船山獸形鏡	89	254 太平元年 (256 年) 同向式 神獸鏡 (鏡径 98 mm) と同数である ので中国製であ る。	中国製

鋸齒文が教える江田船山古墳の古代史

江田船山古墳は、埼玉の稲荷山古墳と同じ銘の鉄剣が出ているので、比較的新しい古墳である。しかも、それに反して、三角縁神獸鏡が出ていない古墳としても有名である。それはどういうことであろうか。青銅鏡は、ここで見てきたように、古い中国製である。これは江田船山の豪族が昔、中国から入手したものであろう。江田船山古墳の主が、景初 3 年 (239 年) ごろの大和朝廷と邪馬台国の対立状態の中で邪馬臺国そのものあるいは邪馬台国側であったとしたら、三角縁神獸鏡の配布は受けず、反対に魏から下賜された銅鏡 100 枚の一部を授けられたかもしれない。それらが、6 面の中国鏡かもしれない。あるいはそれらはもっと以前に入手されたものかもしれない。

その後、3 世紀後半、崇神天皇のころ、大和朝廷に屈服した。日本はこのとき、再統一されたのである。そして、その後の江田船山はうまく収まったのである。そのため江田船山の支配者は帰属後の功績をめでられ雄略天皇 (21 代) の時代に鉄剣の下賜を受けたのである。鉄剣は日本広しといえど、関東の稲荷山と九州の江田船山の 2 カ所しか授与されていない。この 2 カ所は特別な意味を持っているのである。江田船山は大和朝廷をてこずらせた邪馬台国の跡地であり、その治政は大和朝廷にとって特別な意味があったのである。関東の稲荷山も、同様な状況があったのであろう。

鉄剣を授与されたあと、これらをまとめて、古墳に副葬された。その結果、三角縁神獸鏡のない、比較的新しい古墳が出来たのである。大和朝廷が再統一のための味方作りの目的で全国に配布した三角縁神獸

鏡をうけとっていないこと、また後世、雄略天皇から特別に鉄剣を付与されて褒賞されたこと、地理的にも、博多湾沿岸からやや離れており、墳墓的に魏志倭人伝の描写に近いことなどから江田船山古墳の一带は邪馬台国であった可能性が極めて高いのである。

3 佐賀谷口古墳鏡の同環鏡

佐賀谷口古墳（佐賀県唐津市）は佐賀県唐津市の唐津湾の海岸近くの、東の福岡県糸島市との中間にある古墳である。したがって、魏志倭人伝の邪馬台国と深い関係があると考えられる。

博多湾近くの古墳の代表例として佐賀谷口古墳を取り上げて、そこでの三角縁神獣鏡が、大和朝廷が全国に配布した三角縁神獣鏡と同様に陳是・陳氏作品であることを確認することとした。

東博では、7面の銅鏡が収蔵されているらしいが、4面が大径で3面が小径である。

そのなかで、大径の鏡は4面目の写真が見つからず、小径の鏡は2面の鏡径が記載されていなかったもので結局大径3面小径1面の鋸歯文を調査した。

それらは以下のようなものである。

39 佐賀谷口吾作甚獨奇銘三角縁3神3獣鏡（鏡径210mm）

40 佐賀谷口三角縁獣文帯3神3獣鏡（鏡径216mm）

371 佐賀谷口三角縁3神3獣鏡（鏡径216mm）

372 佐賀谷口捩文鏡（鏡径81mm）

39 佐賀谷口吾作甚獨奇銘三角縁3神3獣鏡（鏡径210mm）の同環鏡

39 佐賀谷口吾作甚獨奇銘三角縁3神3獣鏡の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

39は有名な「吾作甚獨」銘のある鏡である。「吾作甚獨奇」銘は132河北省易県燕下都出土方格規矩鳥文鏡と同銘であるため、三角縁神獣鏡中国製説の有力な証拠とされてきたものである。本論の著者たちは、132は陳是・陳氏の中国時代の作品であることを鋸歯文で証明し、従来の説とは全く反対に三角縁神獣鏡が日本製であることを明らかにした（拙著：古代青銅鏡のDNA=鋸歯文、p58および本欄の前報）。

39は多くの三角縁神獣鏡と同環である。陳是・陳氏作品の55, 56, 57, 318の同範鏡群とも同環であるので、39は陳是・陳氏作品である。178mmの環径は167城塚青蓋鏡から採った。39は2環鏡であることから三角縁神獣鏡の初期の鏡である。

表 3-1 39 佐賀谷口吾作銘甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡の同環鏡

39 佐賀谷口吾作銘甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡の同環鏡 (環径 178, 154 mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
20	大阪ヌク谷吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡 (39、 180 と同範)	211	すべて (同 範)	
26	安満宮山 3 号三角縁獣文帯 4 神 4 獣鏡	225	178	
34	島根大成三角縁唐草文帯 2 神 2 獣鏡	234	178	
36	大分亀甲山三角縁波文帯 3 神 3 獣鏡	215	178	
50	兵庫三つ塚 4 号三角縁 3 神 3 獣鏡	220	178	
55	神奈川大塚山 陳氏作 三角縁 4 神 2 獣鏡	221	178	
57	岡山車塚 陳是作 三角縁 4 神 2 獣鏡	220	178	
63	福岡藤崎三角縁盤龍鏡	245	178	
128	大阪紫金山方格規矩 4 神鏡	238	178	
157	滋賀小篠原大岩山獣帯鏡	230	178	
180	一貴山銚子塚吾作甚獨奇銘三角縁神獣鏡 (39 と 同範)	212	すべて (同 範)	
188	岡山車塚 (2) (57 と同じ)	220	178	
306	樺井大塚山 12 獣文帯 4 神 4 獣鏡	223	154	
318	樺井大塚山 24 陳是作 4 神 2 獣鏡 (55, 56, 57 と同範)	220	178	

表 3-2 39 佐賀谷口吾作銘甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡の同数鏡

39 佐賀谷口吾作銘甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡の同数鏡 (環径 178, 154 mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
4	前橋三角縁 4 神 4 獣鏡	215	178	
167	岐阜城塚 青蓋鏡	203	178	

39 の具体的データを以下に示した。

(39, 57)

陳是作銘の 57 が同環である。39 は陳是作品となる。

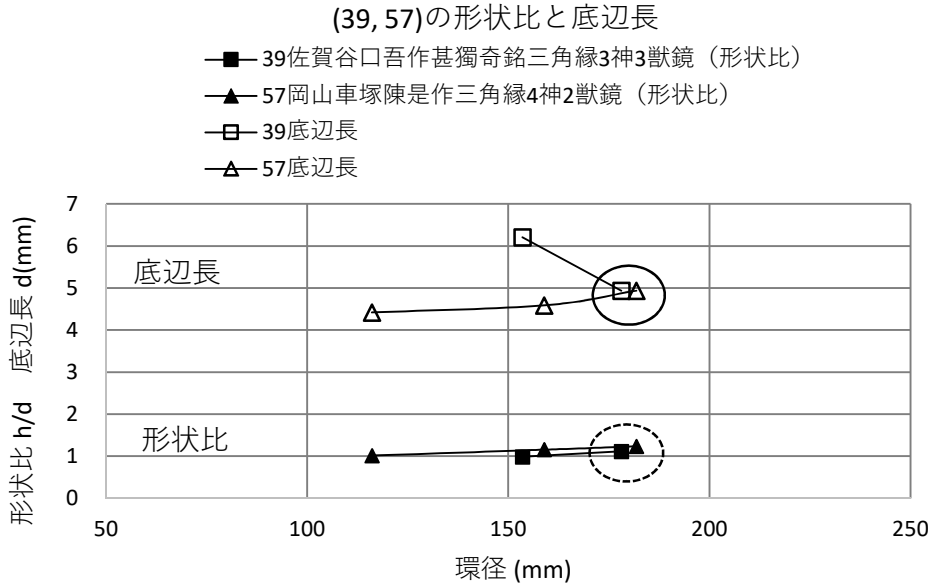


図 3-1 (39, 57)の形状比と底辺長

40 佐賀谷口三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡 (鏡径 216 mm) の同環鏡

40 佐賀谷口三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡 (鏡径 216 mm) の同環鏡を下表に示した。

驚くことに、40 の同環鏡は同範の 38 のわずか 1 面のみであった。これは 40 の底辺長が 9 mm と極めて大きいためである。40 は次に述べる 371 と同径であり、かつ三角縁神獸鏡であるので日本鏡であるが、特異な鏡である。

そのような特殊な鏡が、なぜ佐賀と大阪にあるのであろうか。

表 3-3 40 佐賀谷口三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡 (鏡径 216 mm) の同環鏡

40 佐賀谷口三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡 (鏡径 216 mm) の同環鏡 (環径 178, 154 mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
38	大阪阿武山三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	218	178, 154	

371 佐賀谷口三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡 (鏡径 216 mm) の同環鏡

371 佐賀谷口三角縁 3 神 3 獣鏡 (鏡径 216 mm) の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

371 の同環鏡は多い。371 は作者が同一の鋸歯環で多くの鏡を作ったいわば標準的な三角縁神獣鏡である。陳是、張氏、王氏の 3 氏の銘がある鏡と同環である。三者のうち、張氏、王氏は陳是の 30 年後の渡来工人と考えられる。張氏・王氏は陳是・陳氏の鋸歯文をそのまま引き継いだ。そのため多くの陳是・陳氏作の三角縁神獣鏡が張氏、張是、王氏鏡と同環となる。

371 は 2 環であるので初期の陳是作品ではないか。

表 3-4 371 佐賀谷口三角縁 3 神 3 獣鏡 (鏡径 216 mm) の同環鏡

371 佐賀谷口三角縁 3 神 3 獣鏡 (鏡径 216 mm) の同環鏡 (環径 188, 163 mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
3	椿井大塚山三角縁獣文帯 4 神 4 獣鏡 (304 と同じ)	233	188, 163	
37	岐阜長塚三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡 (371 と同範)	216	すべて	
55	神奈川大塚山陳氏作三角縁 4 神 2 獣鏡	221	163	
61	滋賀織部山三角縁 4 神 4 獣鏡	234	163	
74	島根造山三角縁 3 神 3 獣鏡	240	163	
199	黒塚吾作徐州銘 4 神 4 獣鏡 (357 と同じ)	225	188	
249	造山 1 号墳方格規矩 4 神鏡	189	163	
285	椿井大塚山三角縁神獣鏡 (3 と同じ)	233	163	
300	椿井大塚山 6 張氏作 4 神 4 獣鏡	238	163	
304	椿井大塚山 10 獣文帯 4 神 4 獣鏡	233	188, 163	
308	椿井大塚山 14 獣文帯 4 神 4 獣鏡	223	188	
318	椿井大塚山 24 陳是作 4 神 2 獣鏡 (55, 56, 57 と同範)	220	163	
321	椿井大塚山 27 吾作徐州銘 4 神 4 獣鏡	224	188	
332	西求女塚 9 号吾作銅出徐州銘三角縁 4 神 4 獣鏡 (80、199、321 が同範)	224	188	
344	黒塚 9 号三角縁獣帯 4 神 4 獣鏡	233	188, 163	
355	黒塚 20 号王氏作銘三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡	223	188, 163	
357	黒塚 22 号三角縁 4 神 4 獣鏡	225	188	
365	黒塚 30 号三角縁獣帯 4 神 4 獣鏡	220	188, 163	

表 3-5 371 佐賀谷口三角縁 3 神 3 獸鏡の同数鏡

371 佐賀谷口三角縁 3 神 3 獸鏡の同数鏡 (環径 188, 163 mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
91	景初 3 年 (239 年) 銘大阪黄金塚画文帯同向式神 獸鏡	233	163	

371 の具体的データを以下に示した。

(371, 318)

318 が同環である。318 は陳是作銘である。

(371, 318)の形状比と底辺長

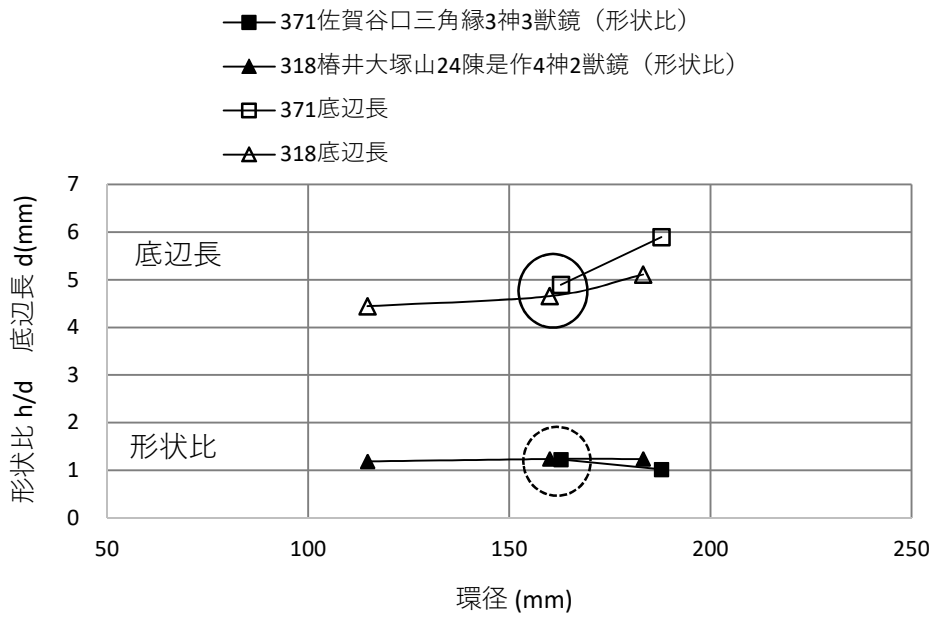


図 3-2 (371, 318)の形状比と底辺長

372 佐賀谷口捩文鏡（鏡径 81 mm）の同環鏡

東博の画像検索では、佐賀谷口古墳出土の鏡の 7 面のうち、3 面が小径の鏡であり、その中で J-6199 の位三公鏡と J-6201 捩文鏡には鏡径が出ておらず、J-6200 捩文鏡のみ鏡径が出ているので、それのみ鋸齒文を測定した。それがこの 372 である。

372 の同環鏡はなかった。これは鋸齒環の径が 47 mm 程度と極端に小さいためである。

(372, 中国鏡)

372 の同環鏡を探索したが、同環鏡はなかった。その探索のなかで同環鏡ではないが、252 から 258 までの樋口隆康「古鏡図録」の鏡の底辺長が、全体で直線をなすのに気が付いた。それを下図に示す。さらに形状比も、まとまった傾向を示すことが認められた。

これらのことから、372 はこれらの樋口鏡と同類ではないかと推測される。

それらの鏡は黄武元年（222 年）から永安 5 年（262 年）の間の製作である。三角縁神獸鏡が日本で製作される少し前から最盛期までの期間である。これらは小径である。中国の銅不足を感じさせる。372 はこれらの中国鏡のひとつであろう。卑弥呼の鏡の一つかもしれない。小径ではあるが中国鏡であるので被葬者は大事にした。

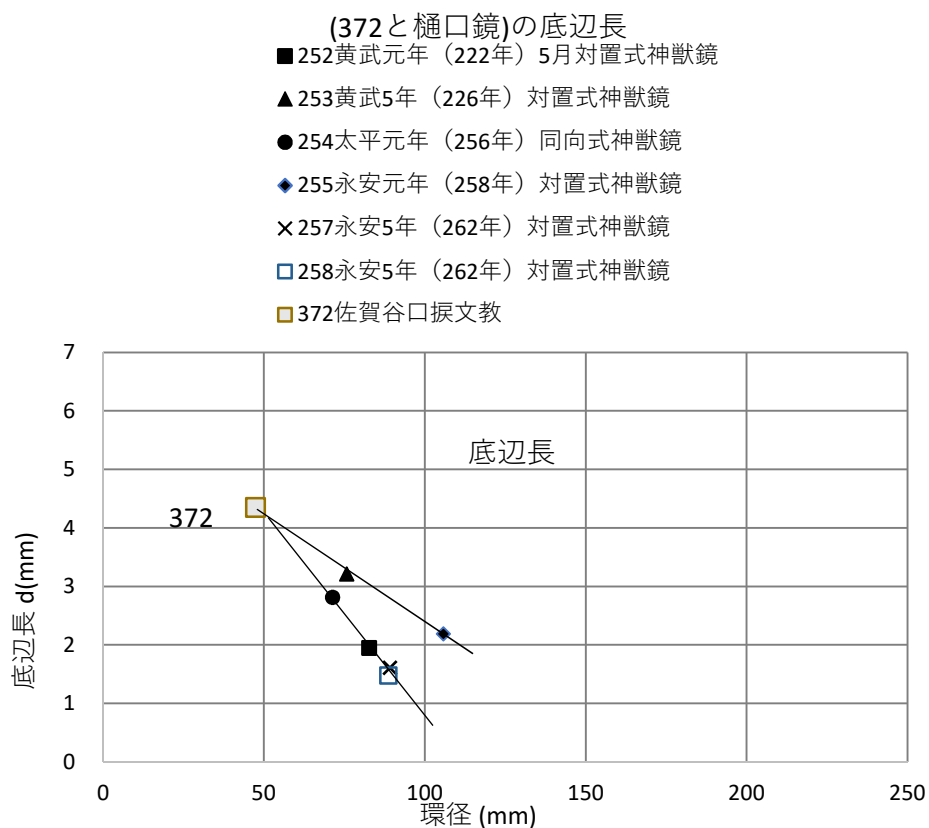


図 3-3 (372, 中国鏡)の底辺長

佐賀谷口鏡のまとめ

佐賀谷口鏡のまとめを下表に示した。陳是作品と中国鏡が混在する。

景初3年(239年)ごろ、大和では大和朝廷が存在し、中国から陳是・陳氏の工人を招き、三角縁神獸鏡などの銅鏡を大々的に製作し鎮撫の意味で諸国に配布し始めた。

一方九州では邪馬台国が魏に遣使し、銅鏡の下賜を受けた。

佐賀谷口古墳のある谷口地方は九州の北岸にあるので、邪馬台国の遣使の影響を強く受けたはずである。おそらく邪馬台国の勢力圏であったであろう。そこに、大和政権が作ったしかも初期の三角縁神獸鏡があることは、その豪族が早くから大和朝廷にも通じていたことを示す。一方、小径の中国鏡があることは、邪馬台国とも通じていたことを示す。

佐賀谷口は大和朝廷が全国の再統一を目指す中で、大国の狭間にあったと考えられる。三角縁神獸鏡が1面もない江田船山古墳と状況が異なることがわかる。

表 3-6 佐賀谷口鏡のまとめ

通し番号	佐賀谷口鏡の名称	鏡径 (mm)	当検討での判定
39	佐賀谷口吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獸鏡 (鏡径 210 mm)	210	多くの三角縁神獸鏡と同環である。陳是作品と同環であるので、 陳是作品 である。2環鏡であることから三角縁神獸鏡の初期の鏡である。
40	佐賀谷口三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	216	40 の関係鏡は同範の 38 のわずか 1 面のみであった。これは 40 の底辺長が 9 mm と極めて大きいためである。40 は同じ谷口古墳出土の 371 三角縁 3 神 3 獸鏡と同径であり、かつ自身も三角縁神獸鏡であるので日本鏡であるが、特異な鏡である。
371	佐賀谷口三角縁 3 神 3 獸鏡	216	371 の同環鏡は多い。371 は作者が同一の鋸歯環で多くの鏡を作ったいわば標準的な三角縁神獸鏡である。2環であるので初期の 陳是作品 である。
372	佐賀谷口捩文鏡	81	同じ小径の 196 江田船山獸形鏡と同径である。両者は 中国製 である。

4 九州の古墳鏡の同環鏡（その1）

以上までで、佐賀谷口古墳鏡では三角縁神獸鏡があり、江田船山古墳では三角縁神獸鏡がないことがわかった。景初3年（239年）ごろ邪馬台国と同時期に大和に存在した大和朝廷は全国に三角縁神獸鏡を配り、再統一への努力をしていた。それは九州にも及んだと考えられ、佐賀谷口、江田船山以外の九州の古墳にどのような影響を与えているかを見ることとした。その（1）として今まで鋸歯文を九州鏡とは意識しないでランダムにすでに測っていた鏡と新たに測った373を加えて以下の7面の九州出土鏡の同環鏡を調査した。

それらは以下のようなものである。

36 大分亀甲山三角縁波文帯3神3獸鏡（鏡径215mm）

373 大分亀甲山重圈文鏡（鏡径57mm）

63 福岡藤崎三角縁盤龍鏡（鏡径245mm）

181 福岡飯塚市立岩方格規矩鏡（鏡径200mm）

183 福岡飯塚市立岩重圈清白銘鏡（鏡径154mm）

232 宮崎持田25号墳火鏡銘4獸鏡（鏡径145mm）

245 大分豊後高田鑑堂劉氏作神人車馬画像鏡（鏡径201mm）

36 大分亀甲山三角縁波文帯3神3獸鏡（鏡径215mm）の同環鏡

36 大分亀甲山三角縁波文帯3神3獸鏡（鏡径215mm）の同環鏡と同数鏡を表4-1と4-2にそれぞれ示した。36はそれ自体が三角縁神獸鏡であるから、当然のこととして陳是作品の21安満宮山5号陳是作平縁同向式神獸鏡と同環である。この156mmの鋸歯環は88大阪郡川尚方作神人歌舞像鏡あたりから採ったのであろう。もう一つの177mmの鋸歯環は67の城塚青蓋鏡から採り、多くの三角縁神獸鏡に移植したのである。これらは後代の椿井大塚山鏡や黒塚鏡にも使用され、322のような張是作品にも現れる。36は陳是作品である。大分亀甲山古墳は大和朝廷から銅鏡の配布を受けたのである。

表 4-1 36 大分亀甲山三角縁波文帯 3 神 3 獣鏡（鏡径 215 mm）の同環鏡

36 大分亀甲山三角縁波文帯 3 神 3 獣鏡（鏡径 215 mm）の同環鏡（環径 177, 156 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
4	前橋三角縁 4 神 4 獣鏡	215	156	
21	安満宮山 5 号 陳是作平縁同向式神獣鏡	176	156	
34	島根大成三角縁唐草文帯 2 神 2 獣鏡（246 と同じ）	234	177	
39	佐賀谷口 吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡	210	177	
50	兵庫三つ塚 4 号三角縁 3 神 3 獣鏡	220	177	
88	大阪郡川尚方作神人歌舞像鏡（155 と同じ）	206	156	
128	大阪紫金山方格規矩 4 神鏡	238	177	
155	八尾郡川画像鏡（88 と同じ）（224 と同範）	206	156	
157	滋賀小篠原大岩山獣帯鏡	230	177	
181	福岡立岩方格規矩鏡	200	156	
224	東京亀塚神人歌舞画像鏡	208	156	
241	鴨都波③斜縁波文帯 6 乳 3 神 3 獣鏡	214	156	
319	椿井大塚山 25 獣文帯 2 神 2 獣鏡	220	156	
320	椿井大塚山 26 獣文帯 4 神 4 獣鏡	224	156	
322	椿井大塚山 28 張是作 4 神 4 獣鏡	218	156	
340	黒塚 5 号三角縁獣帯 5 神 4 獣鏡	225	156	
350	黒塚 15 号三角縁獣帯 4 神 4 獣鏡	222	156	

表 4-2 36 大分亀甲山三角縁波文帯 3 神 3 獣鏡（鏡径 215 mm）の同数鏡

36 大分亀甲山三角縁波文帯 3 神 3 獣鏡（鏡径 215 mm）の同数鏡（環径 177, 156 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
11	前橋三角縁 5 神 4 獣鏡	223	156	
71	山口宮の洲三角縁 2 神 2 獣鏡	224	156	
167	岐阜城塚青蓋鏡	203	177	
216	沖ノ島三角縁 2 神 2 獣鏡	222	156	
301	椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獣鏡	226	156	

36 の具体的データを以下に示した。

(36, 21)

21 が同環である。21 は陳是作銘である。

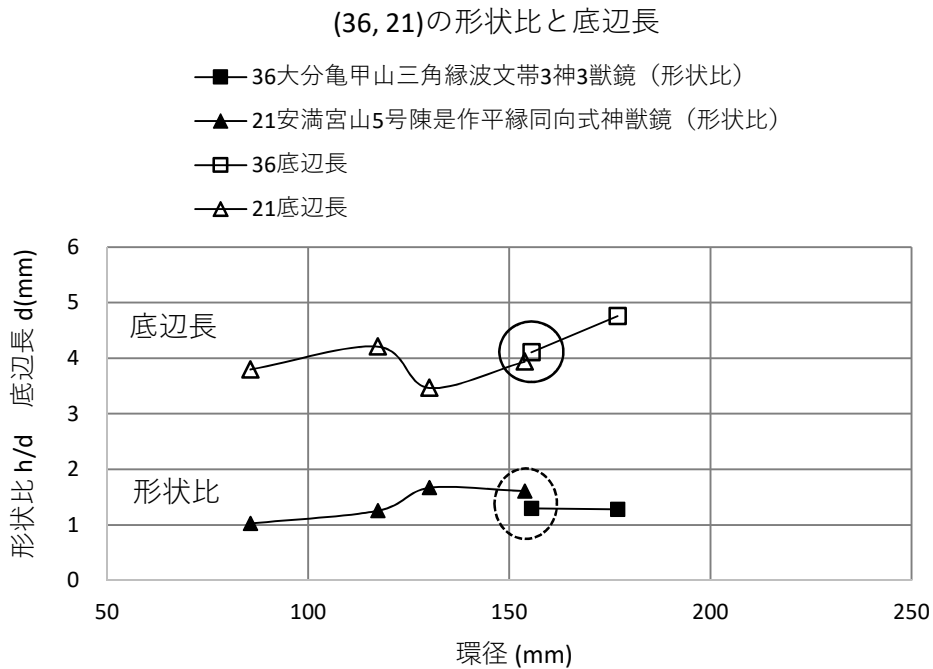


図 4-1 (36, 21)の形状比と底辺長

373 大分亀甲山重圈文鏡(鏡径 57 mm)の同環鏡

373 は鏡径が 57 mm と小さく同環鏡はなかった。

しかし、同環鏡探しの中で、小径の鏡同士で、底辺長が特異な配列をすることが見いだされた。それは、複数個の鏡で、それらの底辺長が直線をなすことである。以下に示したように (図省略)、373 は小径の中国鏡と、環径と底辺長の関係に類縁関係があり、したがって中国鏡であると考えられる。

63 福岡藤崎三角縁盤龍鏡 (鏡径 245 mm) の同環鏡

63 福岡藤崎三角縁盤龍鏡 (鏡径 245 mm) の同環鏡と同数鏡を表 4-3 と表 4-4 にそれぞれ示した。

183 mm の鋸歯環でふたつの吾作甚獨奇銘鏡の 20 大阪ヌク谷吾作甚獨奇銘 3 神 3 獸鏡、39 佐賀谷口吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獸鏡と同環であるので 63 は陳是作品である。

131 mm の鋸歯環は中国時代の陳是作品の 132 河北省易県吾作甚獨奇銘方格規矩鳥文鏡から来て多くの鏡に使われた。張氏も自分の中国時代の作品の 211 久保惣記念美術館藏泰始 9 年 (273 年) 銘鏡に採用した。63 は三角縁神獸鏡であり、かつ多くの他の三角縁神獸鏡と同環であるので、陳是作品である。

表 4-3 63 福岡藤崎三角縁盤龍鏡（鏡径 245 mm）の同環鏡

63 福岡藤崎三角縁盤龍鏡（鏡径 245 mm）の同環鏡（環径 208, 183, 131 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
20	大阪ヌク谷吾作甚獨奇銘 3 神 3 獸鏡	211	183	
34	島根大成三角縁唐草文帯 2 神 2 獸鏡	234	183	
36	大分亀甲山三角縁波文帯 3 神 3 獸鏡	215	183	
39	佐賀谷口吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獸鏡（20、 180 と同範）	210	183	
50	兵庫三つ塚 4 号三角縁 3 神 3 獸鏡	220	183	
58	鳥取馬の山三角縁 3 神 2 獸鏡	216	183	
62	山口宮の洲三角縁波文帯盤龍鏡	244	131	
157	滋賀小篠原大岩山獸帯鏡	230	183	
180	一貴山銚子塚吾作甚獨奇銘三角縁神獸鏡	212	183	
211	久保惣記念美術館藏泰始 9 年（273 年）銘鏡 （210 と同範）	177	131	
247	造山 1 号墳三角縁神獸鏡	240	278	
287	谷口古墳鏡（39 と同じ）	212	183	
292	雪野山三角縁波文帯盤龍鏡	247	すべて	
317	椿井大塚山唐草文帯 4 神 4 獸鏡	237	131	

表 4-4 63 福岡藤崎三角縁盤龍鏡（鏡径 245 mm）の同数鏡

63 福岡藤崎三角縁盤龍鏡（鏡径 245 mm）の同数鏡（環径 208, 183, 131 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
1	国分茶白山銅出徐州銘三角縁 4 神 2 獸鏡	222	183	
7	長法寺南原三角縁 3 神 3 獸鏡	227	131	
24	安満宮山 2 号青龍 3 年（235 年）銘方格規矩 4 神鏡	174	131	
132	河北省易県吾作甚獨奇銘方格規矩鳥文鏡	154	131	中国
146	山梨大丸山三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	170	131	
217	沖ノ島方形帯方格規矩鏡	262	183	
262	聖仏鎮円圈規矩鳥文鏡	155	131	中国
290	雪野山三角縁唐草文帯 4 神 4 獸鏡	242	131	

63 の具体的データを以下に示した。

(63, 20)

20 が同環である。20 は吾作甚獨奇銘である。

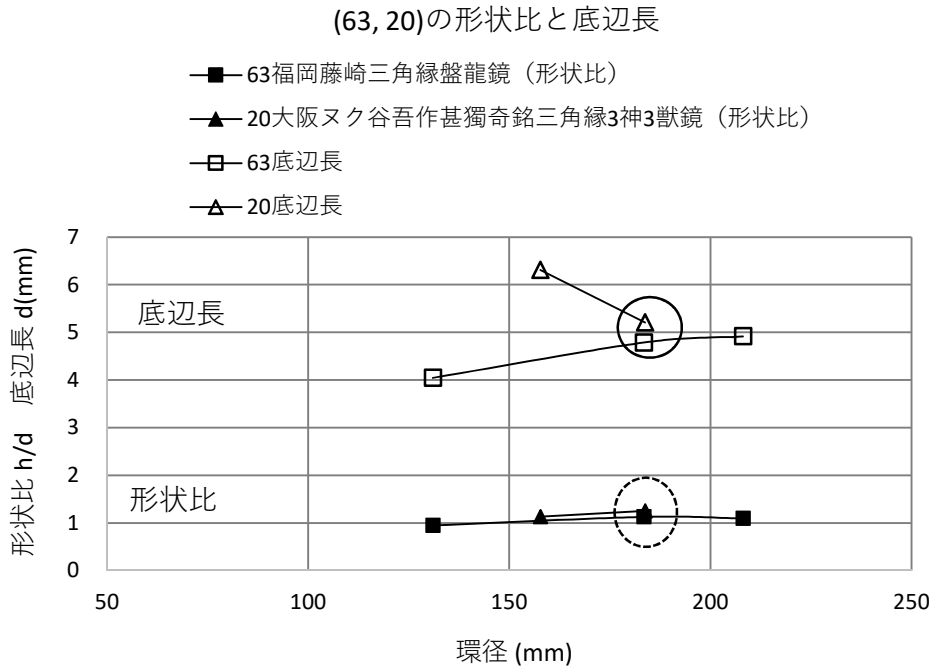


図 4-2 (63, 20)の形状比と底辺長

181 福岡立岩方格規矩鏡（鏡径 200 mm）の同環鏡

181 福岡立岩方格規矩鏡（鏡径 200 mm）の同環鏡と同数鏡を表 4-5、4-6 にそれぞれ示した。

181 は方格規矩鏡であり、L 字が右曲がりである。したがって中国鏡である。陳是は 181 の 153 mm の環径を自分の三角縁神獸鏡に移植したと考えられる。その結果多くの同環鏡が出来たのである。

同数鏡も多い。181 は中国鏡であるので形状比が大きい。陳是は形状比が小さい鋸歯が好みであったので、形状比の小さい三角縁神獸鏡を多数作った。そのため多くの同数鏡が生まれた。

181 は中国鏡である。

表 4-5 181 福岡立岩方格規矩鏡（鏡径 200 mm）の同環鏡

181 福岡立岩方格規矩鏡（鏡径 200 mm）の同環鏡（環径 153 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地

21	安満宮山 5 号陳是作平縁同向式神獸鏡	176	153	
88	大阪郡川尚方作神人歌舞像鏡 (155 と同じ)	206	153	
155	八尾郡川画像鏡 (88 と同じ) (224 と同範)	206	153	
216	沖ノ島三角縁 2 神 2 獸鏡	222	153	
224	東京亀塚神人歌舞画像鏡	208	153	
241	鴨都波③斜縁波文帯 3 神 3 獸鏡	214	153	
324	椿井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡	184	153	

表 4-6 181 福岡立岩方格規矩鏡 (鏡径 200 mm) の同数鏡

181 福岡立岩方格規矩鏡 (鏡径 200 mm) の同数鏡 (環径 153 mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
4	前橋三角縁 4 神 4 獸鏡	215	153	
11	前橋三角縁 5 神 4 獸鏡	223	153	
33	静岡松林山吾作甚獨奇銘三角縁 2 神 2 獸鏡	213	153	
35	兵庫三つ塚三角縁 3 神 3 獸	215	153	
71	山口宮の洲三角 2 神 2 獸鏡	224	153	
301	椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獸鏡	226	153	
320	椿井大塚山 26 獸文帯 4 神 4 獸鏡	224	153	
340	黒塚 5 号三角縁 5 神 4 獸鏡	225	153	
347	黒塚 12 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡 (366 と同範)	218	153	
350	黒塚 15 号三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	222	153	
351	黒塚 16 号陳氏作三角縁銘帯 3 神 5 獸鏡 (353 と同範)	227	153	
353	黒塚 18 号張氏作銘三角縁銘帯 3 神 5 獸鏡 (351 と同範)	226	153	
366	黒塚 31 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡 (347 と同範)	220	153	

181 の具体的データを以下に示した。

(181, 324)

324 が同環である。L 字が 181 は右曲がりであるが、324 は左曲がりである。181 は中国鏡であるが、324 は陳是作品である。

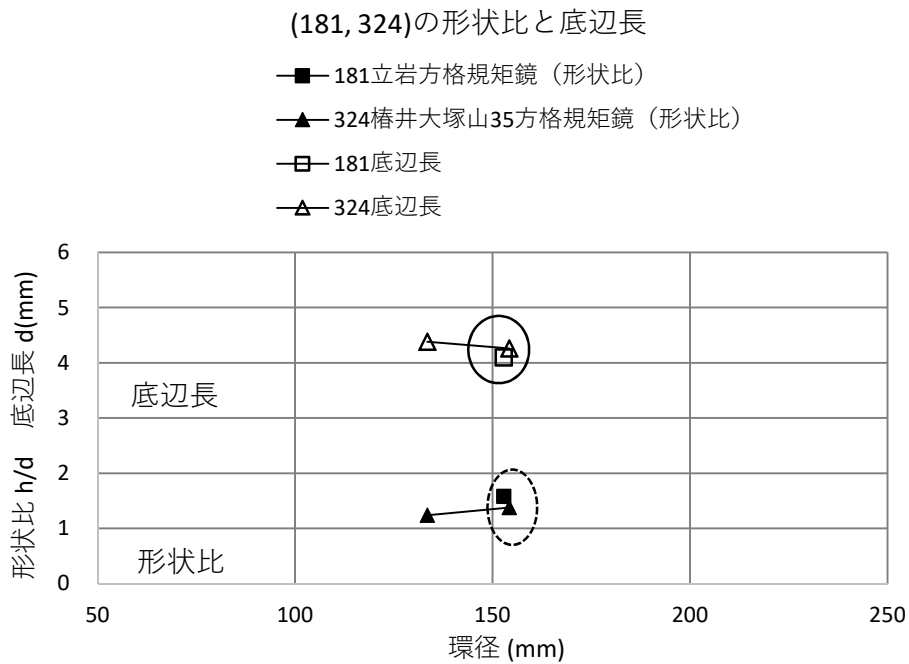


図 4-3 (181, 324)の形状比と底辺長

183 福岡立岩重圈清白銘鏡の同環鏡（鏡径 154 mm）の同環鏡

183 福岡立岩重圈清白銘鏡の同環鏡（鏡径 154 mm）の同環鏡と同数鏡を表 4-7、4-8 にそれぞれ示した。

183 は第 1 環（最大環）で形状比と底辺長が 2 付近に集まるといふ一部の中国鏡特有の特性を有しているため中国鏡である。したがって、ほとんど中国鏡とのみ同環、同数である。国内出土鏡も中国鏡である。183 は中国鏡である。

表 4-7 183 福岡立岩重圈清白銘鏡の同環鏡（鏡径 154 mm）の同環鏡

183 福岡立岩重圈清白銘鏡の同環鏡（鏡径 154 mm）の同環鏡（環径 125, 99, 82, 57, 40 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
27	安満宮山 4 号吾作銘斜縁 2 神 2 獸鏡	158	125	
119	湖北省呉造対置式神獸鏡	150	82	中国
207	雲南省晋寧石寨山鏡	150	82	中国
229	京都庵寺山対置式神獸鏡	167	99	

表 4-8 183 福岡立岩重圈清白銘鏡の同環鏡（鏡径 154 mm）の同数鏡

183 福岡立岩重圈清白銘鏡の同環鏡（鏡径 154 mm）の同数鏡（環径 125, 99, 82, 57, 40 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
115	元興元年（105 年）環状乳神獸鏡	120	82	中国
160	京都百々ヶ池画文帯神獸鏡	130	99	
257	永安 5 年（262 年）対置式神獸鏡	122	82	中国
265	劉氏作銘帯神獸鏡	120	82	中国
273	鄂 198 太平元年（251 年）鏡	128	99	
333	西求女塚 11 号画文帯環状乳神獸鏡	171	99	
334	西求女塚 12 号半肉彫獸帯鏡	142	99	

183 の具体的データを以下に示した。

(183, 207)

207 が同環である。207 は雲南省出土鏡である。

(183, 207)の形状比と底辺長

- 183立岩重圈清白銘鏡（形状比）
- ▲— 207雲南省晋寧石寨山鏡（形状比）
- 183底辺長
- △— 207底辺長

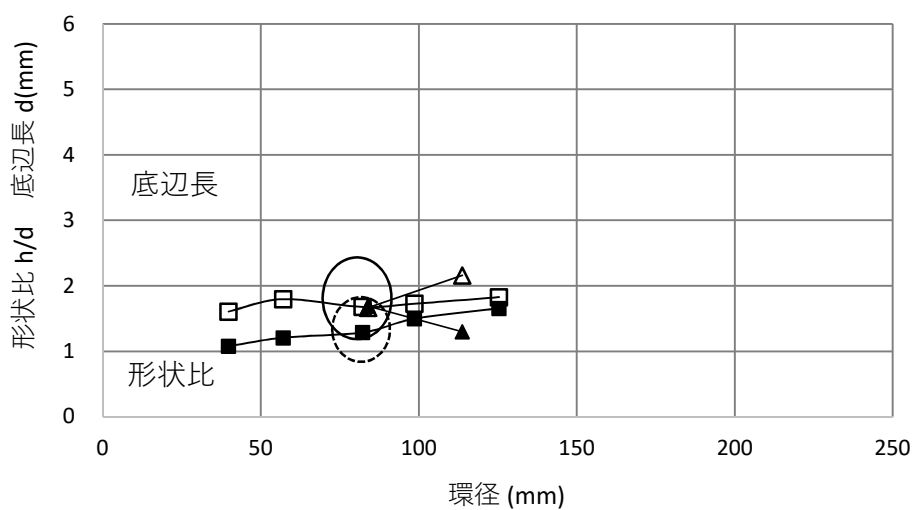


図 4-4 (183, 207)の形状比と底辺長

232 宮崎持田 25 号墳火鏡銘 4 獣鏡（鏡径 145 mm）の同環鏡

232 宮崎持田 25 号墳火鏡銘 4 獣鏡（鏡径 145 mm）の同環鏡と同数鏡を表 4-9、4-10 にそれぞれ示した。

232 は第 2 環で形状比と底辺長が 2 付近に集まるといふ一部の中国鏡特有の特性を有しているため中国鏡である。同環鏡も同数鏡も中国鏡が多い。日本出土鏡も中国鏡である。

239 は中国鏡である。

表 4-9 232 宮崎持田 25 号墳火鏡銘 4 獣鏡（鏡径 145 mm）の同環鏡

232 宮崎持田 25 号墳火鏡銘 4 獣鏡（鏡径 145 mm）の同環鏡（環径 119, 89 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
53	岡山花光寺山三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	218	119	
116	永康元年（167 年）環状乳 4 神 4 獣鏡	160	119	中国
156	京都長法寺南原龍虎鏡	117	89	
174	袁氏作画像鏡	130	89	中国
195	江田船山同向式神獣鏡	209	119	
207	雲南省晋寧石寨山昭明鏡	150	119	中国
208	伝ホケノ山出土鏡	153	119	
247	造山 1 号墳三角縁神獣鏡	240	119	

表 4-10 232 宮崎持田 25 号墳火鏡銘 4 獣鏡（鏡径 145 mm）の同数鏡

232 宮崎持田 25 号墳火鏡銘 4 獣鏡（鏡径 145 mm）の同数鏡（環径 119, 89 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
108	貝吹山 1 号墳内行花文鏡	172	119	
124	武昌所作黄初 2 年（221 年）同向式神獣鏡	120	89	中国
169	尚方名工杜氏盤龍鏡	150	119	中国
214	広東省江尾英徳県鏡	156	119	中国
266	鄂 102 嘉平 7 年（178 年）鏡	118	89	中国
369	黒塚棺内画文帯神獣鏡	135	89	

232 の具体的データを以下に示した。

(232, 156)

156 が同環である。両者は形状比と底辺長が 2 付近に集まるという一部の中国鏡特有の特徴を有しているのもともに中国鏡である。

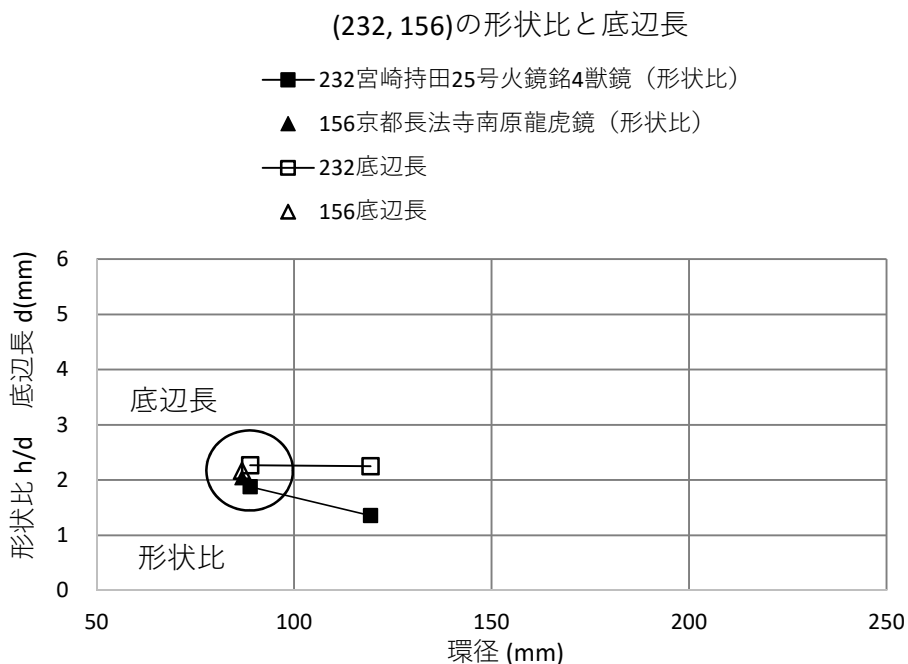


図 4-5 (232, 156)の形状比と底辺長

245 鑑堂劉氏作神人車馬画像鏡（鏡径 209 mm）の同環鏡

245 鑑堂劉氏作神人車馬画像鏡（鏡径 209 mm）の同環鏡と同数鏡を表 4-11、4-12 にそれぞれ示した。

245 は出土地は鏡堂（豊後高田市）古墳であるが劉氏作銘であるから中国鏡である。

陳是・陳氏は 245 を中国から持参し、自分たちの三角縁神獸鏡に鋸齒環を移植した。

同環の三角縁神獸鏡は 245 の鋸齒環を借用したと考えられる。

同数鏡の三角縁神獸鏡は、そのとき形状比も小さくした作品である。

表 4-11 245 鑑堂劉氏作神人車馬画像鏡（鏡径 209 mm）の同環鏡

245 鑑堂劉氏作神人車馬画像鏡（鏡径 209 mm）の同環鏡（環径 146 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
2	国分茶白山三角縁 4 神 4 獣鏡	231	146	
9	金崎三角縁 2 神 2 獣鏡	208	146	
19	魏晋の方格規矩鏡	168	146	

220	兵庫よせわ三角縁画文帯対置式神獸鏡	201	146	
345	黒塚10号三角縁3神4獸鏡	218	146	

表 4-12 245 鑑堂劉氏作神人車馬画像鏡（鏡径 209 mm）の同数鏡

245 鑑堂劉氏作神人車馬画像鏡（鏡径 209 mm）の同数鏡（環径 146 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
59	岡山車塚新作銘三角縁4神4獸鏡（2と同范）	232	146	
296	椿井大塚山2吾作4神4獸鏡	198	146	
331	西求女塚8号三角縁吾作4神4獸鏡	198	146	
339	黒塚三角縁銘帯4神4獸鏡	200	146	

245 の具体的データを以下に示した。

(245, 2)

2 が同環である。

(245, 2)の形状比と底辺長

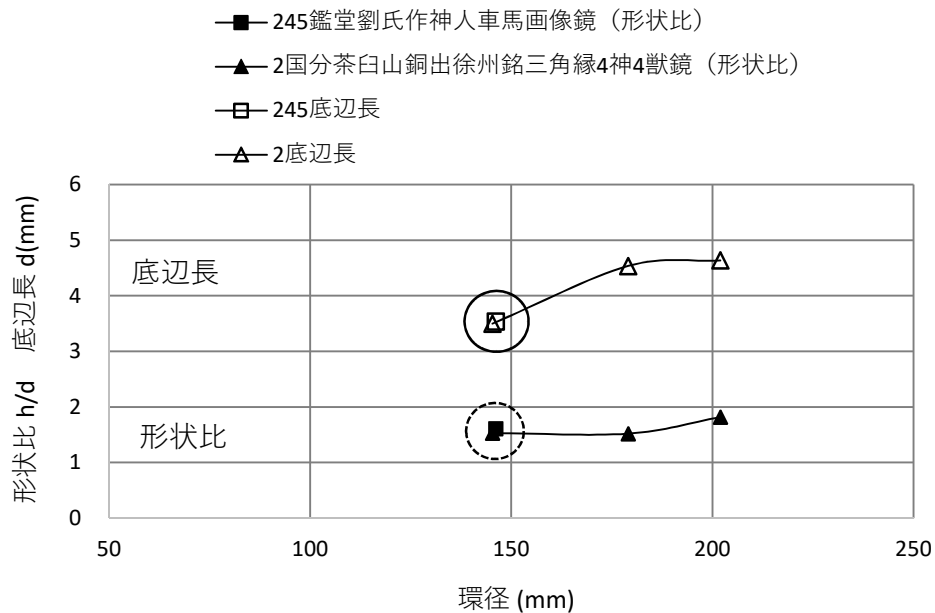


図 4-6 (245, 2)の形状比と底辺長

5 九州の古墳鏡の同環鏡（その2）

370 までは、九州鏡はランダム収集の鏡のなかに混在していたが、九州で三角縁神獣鏡のない区域が邪馬台国であるという仮説を得たので、意識的に九州の古墳出土の鏡の同環鏡を調査することとした。

180 は一貴山（福岡県糸島市）鏡の代表として選んだ。

374 は Wikipedia の福岡市埋蔵文化財調査報告書第 141 集、「那珂八幡古墳」（1986 年福岡市教育委員会）から、また 375 から 379 までは「日本列島出土鏡集成」下垣仁志（2016 年）のなかの九州鏡で東博に所蔵されているものから選出した。

それらは以下の 7 鏡である。

180 一貴山銚子塚吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡（鏡径 212 mm）

374 福岡那珂三角縁 5 神 4 獣鏡（鏡径 218 mm）

375 福岡原口三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡（鏡径 219 mm）

376 福岡小郡市下鶴 4 獣鏡（鏡径 106 mm）s

377 宮崎日向市富高 2 号墳 4 神 4 獣鏡（鏡径 118 mm）

378 宮崎市陣ヶ平 4 獣鏡（鏡径 109 mm）

379 宮崎市日南市油津画文帯神獣鏡（鏡径 209 mm）

180 一貴山銚子塚吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡（鏡径 212 mm）の同環鏡

一貴山古墳は福岡県糸島市にある古墳で方格規矩鏡 1 面、内行花文鏡 1 面、三角縁神獣鏡 8 面が出ていると「日本列島出土鏡集成」にあるが、いずれも京都大学総合博物館にあるためアクセスできない。

180 が唯一わかっている一貴山鏡であるので、その同環鏡を調べた。

180 一貴山銚子塚吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡（鏡径 212 mm）の同環鏡を下表に示した。同数鏡はなかった。

180 は 20 と 39 と同範である。55 神奈川大塚山陳氏作三角縁 4 神 2 獣鏡と同環であるので、陳氏作品である。一貴山鏡の他の三角縁神獣鏡も陳氏作品であると想像される。

表 5-1 180 一貴山銚子塚吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡（鏡径 212 mm）の同環鏡

180 一貴山銚子塚吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡（鏡径 212 mm）の同環鏡（環径 184, 157mm）				
鏡番号	名称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地

20	大阪ヌク谷吾作甚獨奇銘3神3獸鏡(同範)	211	すべて	
26	安満宮山3号三角縁獣文帯4神4獸鏡	225	184	
39	佐賀谷口吾作銘三角縁3神3獸鏡(20、180と同範)	210	すべて	
55	神奈川大塚山陳氏作三角縁4神2獸鏡	221	184	
61	京都長法寺南原三角縁鋸齒文帯4神4獸鏡	230	184	
128	大阪紫金山方格規矩4神鏡	238	184	
157	滋賀小篠原大岩山獸帯鏡	230	184	
292	雪野山三角縁波文帯盤龍鏡	247	184	
318	椿井大塚山24陳是作4神2獸鏡(55、56、57と同範)	220	184	

180の具体的データを以下に示した。

(180, 55)

55が同環である。55は陳氏作銘である。

(180, 55)の形状比と底辺長

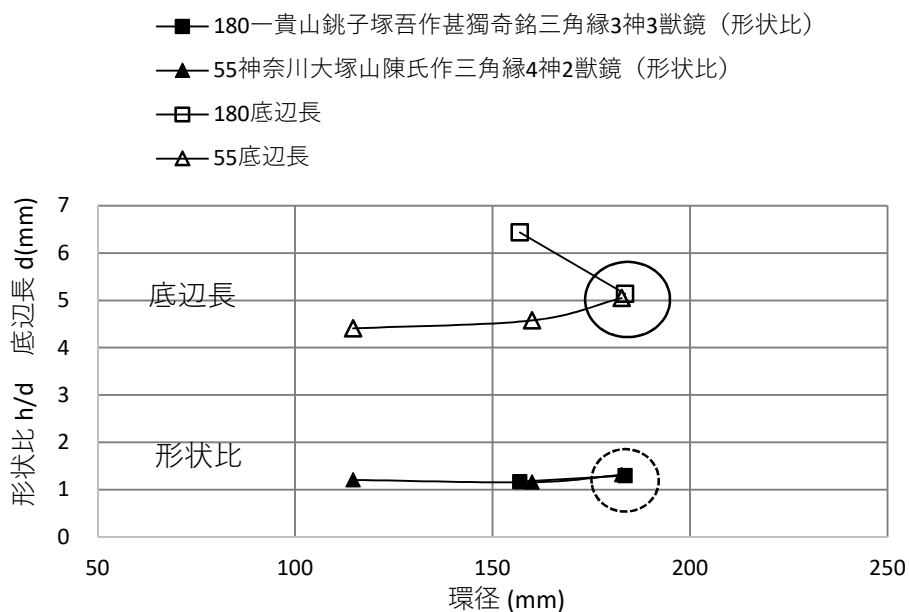


図 5-1 (180, 55)の形状比と底辺長

374 福岡那珂三角縁5神4獸鏡(鏡径218mm)の同環鏡

374 福岡那珂(博多区那珂一丁目)三角縁5神4獸鏡(鏡径218mm)の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

374の同環鏡は多い。これは、374は最も一般的な三角縁神獸鏡であることを示している。

115 mmの環径は 262 の聖仏鎮鏡と、153 mmの環径は 21 の安満宮山鏡と、166 mmの環径は 131 の紹興鏡と、186 mmは 25 の安満宮山鏡と共通している。

374 は、これらの鋸齒環を総合して作られた最も一般的な三角縁神獸鏡である。これが大和から離れ、大陸との重要な玄関口である博多方面に贈られたのである。

表 5-2 374 福岡那珂三角縁 5 神 4 獸鏡（鏡径 218 mm）の同環鏡

374 福岡那珂三角縁 5 神 4 獸鏡（鏡径 218 mm）の同環鏡（環径 186, 166, 153, 115mm）				
鏡番号	名称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
21	安満宮山 5 号陳是作平縁同向式	176	153	
25	安満宮山 1 号吾作銘三角縁環状乳 4 神 4 獸鏡	218	186, 166	
44	滋賀小篠原大岩山三角縁画文帯盤龍鏡	245	186	
47	愛知出川大塚三角縁 3 神 3 獸鏡 (51 と同範)	221	166	
49	兵庫親王塚三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	215	115	
51	鳥取大将塚三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡 (47 と同範)	223	166	
53	岡山花光寺山三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	218	186, 166	
82	岡山車塚三角縁画文帯 5 神 4 獸鏡	220	すべて	
87	大阪黄金塚三角縁波文帯盤龍鏡	245	186	
95	山梨銚子塚陳氏作神獸車馬鏡	221	166	
104	貝吹山夕龍鏡	227	166	
127	岡山鶴山丸山変形方格規矩 4 神鏡	170	115	
131	紹興神人龍虎画像鏡	212	166	中国
148	岡山鶴山丸山変形方格規矩 4 神鏡	170	115	
189	長江流域鏡 (1)	156	115	中国
233	奈良平林交互式神獸鏡	215	166	
240	鴨都波②斜縁波文帯 2 神 4 獸鏡	207	115	
262	聖仏鎮円圈規矩鳥文鏡	155	115	中国
312	椿井大塚山 18 画文帯 5 神 5 獸鏡	218	186, 166, 153	
314	椿井大塚山 20 吾作 3 神 5 獸鏡	225	115	
327	西求女塚 3 号三角縁 3 神 5 獸鏡	225	166, 153, 115	
328	西求女塚 5 号陳是作三角縁 5 神 5 獸鏡	218	186, 166	
341	黒塚 6 号陳是作三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	すべて	
346	黒塚 11 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	166, 153, 115	
349	黒塚 14 号三角縁画文帯 6 神 3 獸鏡	218	188, 166	

354	黒塚 19 号三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡	223	166	
360	黒塚 25 号三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡	220	186	

表 5-3 374 福岡那珂三角縁 5 神 4 獣鏡（鏡径 218 mm）の同数鏡

374 福岡那珂三角縁 5 神 4 獣鏡（鏡径 218 mm）の同数鏡（環径 186, 166, 153, 115mm）				
鏡番号	名称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
4	前橋三角縁 4 神 4 獣鏡	215	153	
12	正始元年陳是作三角縁同向式神獣鏡	226	166	
15	椿井 M31 号三角縁 3 神 5 獣鏡（315 と同じ）	215	166	
30	岐阜長塚三角縁唐草文帯 2 神 2 獣鏡（31 と同範）	217	153	
31	京都長法寺南原三角縁唐草文帯 2 神 2 獣鏡	215	153	
70	京都百々ヶ池三角縁 2 神 2 獣鏡	224	115	
83	奈良佐味田三角縁対置式神獣鏡	218	166	
154	兵庫笹倉亀山同向式画文帯神獣鏡	148	115	

374 の具体的データを以下に示した。

(374, 21) 21 が同環である。21 は陳是作銘である。

(374, 21) の形状比と底辺長

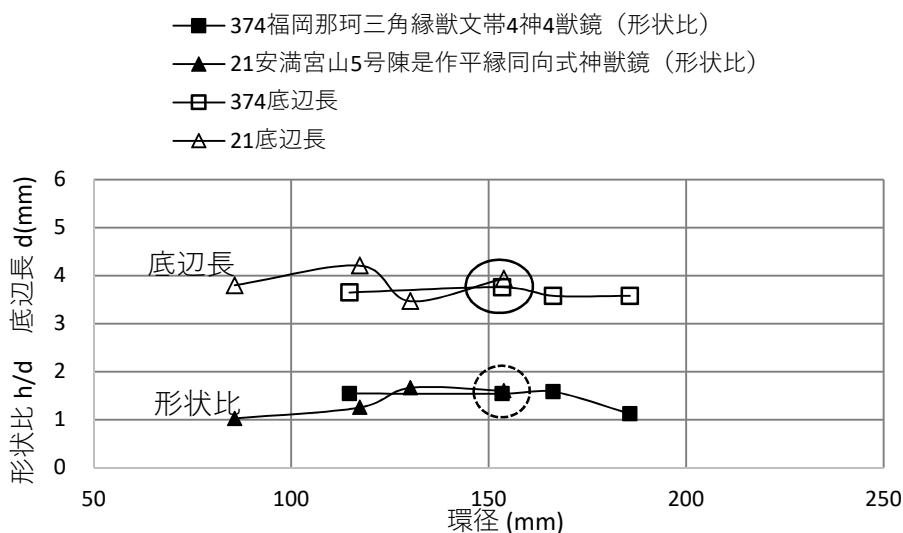


図 5-2 (374, 21) の形状比と底辺長

375 福岡原口三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡（鏡径 219 mm）の同環鏡

375 福岡原口（福岡県筑紫野市）三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡（鏡径 219 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示

した。

375 は同環鏡が多い。三角縁神獸鏡の同環鏡も多い。作者銘も陳是から後代の張是、張氏にまでわたっている。

182 mmの環径は多くの三角縁神獸鏡と共通している。

163 mmの環径は、陳是が 166 の永平 7 年鏡から採って多くの三角縁神獸鏡に使った。

132 mmの環径は同数鏡の 100、104 や 113 と共通としたが 375 では形状比を小さくした。その結果、192 の江田船山鏡と偶然同環となった。

375 は陳是作か張是・張氏作の国産鏡である。

表 5-4 375 福岡原口三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡（鏡径 219 mm）の同環鏡

375 福岡原口三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡（鏡径 219 mm）の同環鏡（環径 182, 163, 132mm）				
鏡番号	名称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
14	新山西王母三角縁神獸鏡	226	182, 163	
26	安満宮山 3 号三角縁獸文帯 4 神 4 獸鏡	225	163	
35	兵庫三つ塚三角縁 3 神 3 獸鏡	215	163	
44	滋賀小篠原大岩山三角縁画文帯盤龍鏡	245	182	
52	兵庫女塚三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	221	すべて	
70	京都百々ヶ池三角縁 2 神 2 獸鏡	224	182, 163	
83	奈良佐味田三角縁対置式神獸鏡	218	163	
88	大阪郡川西塚尚方作神人歌舞像鏡（155 と同じ）	206	163	
162	京都百々ヶ池獸帯鏡	215	163	
166	永平 7 年（64 年） 尚方作獸帯鏡	190	163	中国
185	新山尚方作三角縁神獸鏡	223	163	
192	江田船山 獸帯鏡	178	132	
322	椿井大塚山 28 張是作 4 神 4 獸鏡（361 と同範）	218	182, 163	
224	東京亀塚神人歌舞画像鏡	208	163	
301	椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獸鏡	226	163	
324	椿井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡	184	163	
341	黒塚 6 号 陳是作 三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	182	
343	黒塚 8 号三角縁神人龍虎画像鏡	223	182	
346	黒塚 11 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡（360 と同範）	220	182	
348	黒塚 13 号 張是作 銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	218	182	
360	黒塚 25 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡（346 と同範）	220	182, 163	
361	黒塚 26 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡（322 と同範）	218	182, 163	
370	王趁意氏鏡	183	163	

表 5-5 375 福岡原口三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡（鏡径 219 mm）の同数鏡

375 福岡原口三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡（鏡径 219 mm）の同数鏡（環径 182, 163, 132mm）				
鏡番号	名称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
100	景初 4 年（240 年）銘福知山広峯陳是作斜縁盤龍鏡	168	132	
104	貝吹山ダ龍鏡	227	132	
107	新山変形方格規矩鏡	243	182	
113	黄金塚画文帯同向式神獣鏡	187	132	
241	鴨都波③斜縁波文帯 3 神 3 獣鏡	214	182, 163	

357 の具体的データを下記に示した。

(375, 107)

107 が同数である。107 は L 字が左曲がりて陳是作品であることを示している。それが三角縁神獣鏡の 375 と同数であるのは当然である。

(375, 107)の形状比と底辺長

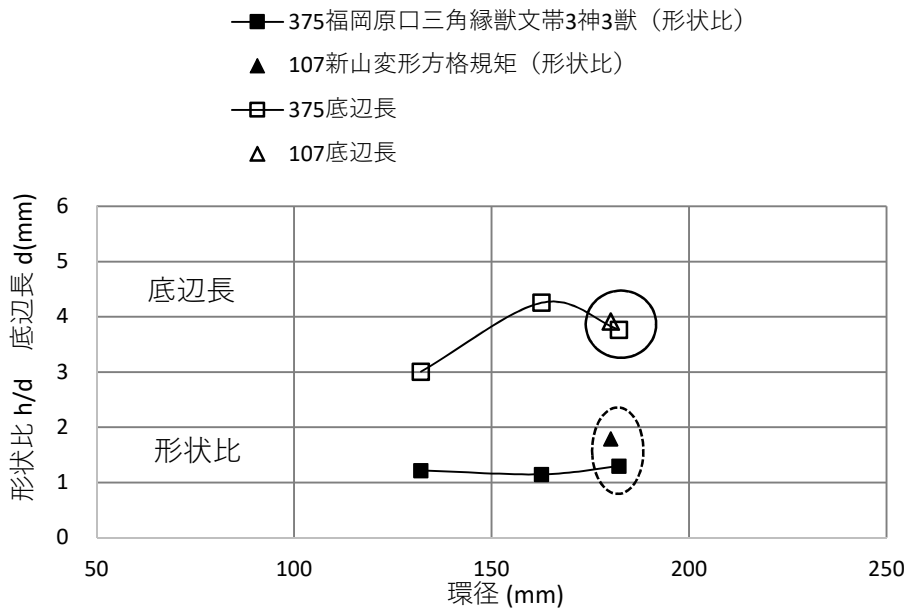


図 5-3 (375, 107)の形状比と底辺長

376 福岡小郡市下鶴 4 獣鏡（鏡径 106 mm）の同環鏡

376 の同環鏡、同数鏡はなかった。これは、これまで調べた 379 番までのなかで珍しい例である。これは環径が 75 mm と小さいのに、底辺長が大きいためである。

その中で、環径が近い鏡の底辺長が直線を示す現象が 376 にも見つかった。これを以下に示す。
376 は中国鏡である。

(376, 140, 138)

140 と 138 の底辺長が 376 と直線をなす。

これらは小径であり、底辺長が環径に逆比例するという傾向を有しているので、ともに中国製であろう。

(376, 140, 138)の形状比と底辺長

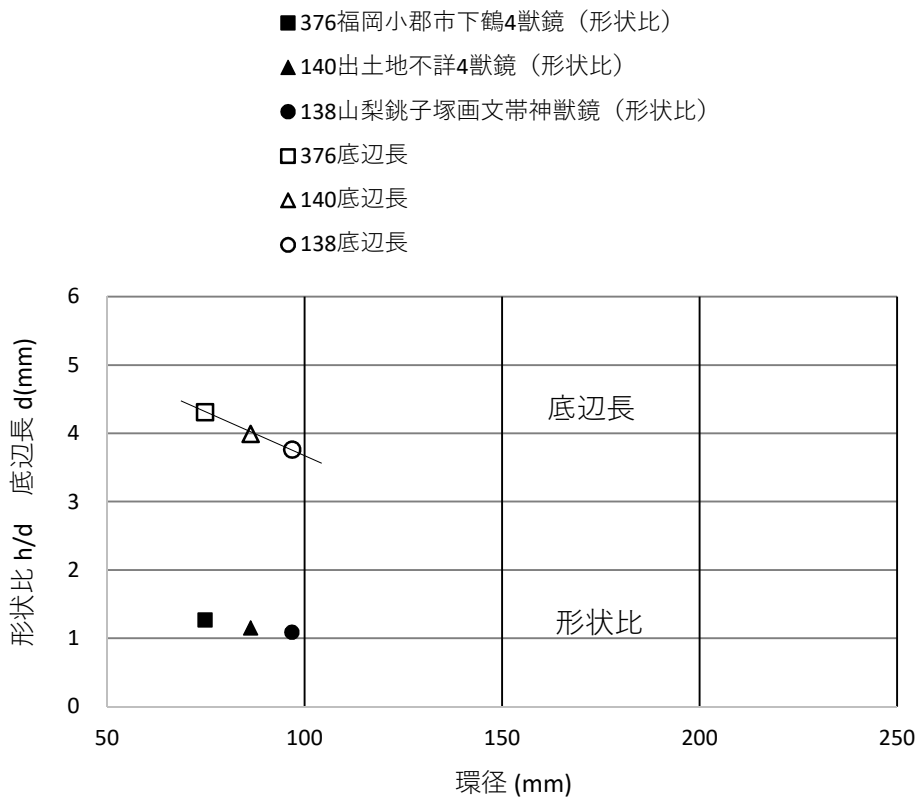


図 5-4 (376, 140, 138)の形状比と底辺長

377 宮崎日向市富高 2 号墳 4 神 4 獣鏡 (鏡径 118 mm) の同環鏡

377 は三角縁神獣鏡の同環鏡も同数鏡もない。124 などの中国鏡と同環であるので 377 は中国鏡である。

表 5-6 377 宮崎日向市富高 2 号墳 4 神 4 獣鏡（鏡径 118 mm）の同環鏡

377 宮崎日向市富高 2 号墳 4 神 4 獣鏡（鏡径 118 mm）の同環鏡（環径 89,76mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
106	三重保子里ダ龍鏡	139	89,76	
124	武昌所作黄初 2 年 (221 年) 同向式神獣鏡	120	89	中国
151	京都坂本世賀居 6 獣鏡	97	76	
192	江田船山獣文帯神獣鏡	178	76	

表 5-7 377 宮崎日向市富高 2 号墳 4 神 4 獣鏡（鏡径 118 mm）の同数鏡

377 宮崎日向市富高 2 号墳 4 神 4 獣鏡（鏡径 118 mm）の同数鏡（環径 89,76mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
136	前橋天神山変形獣形鏡	165	89	
141	出土地不詳 2 神 2 獣鏡	108	76	
163	前橋天神山変形獣形鏡	215	89	
174	袁氏作画像鏡	130	89	中国
276	鄂州銅鏡 203	130	89	中国

377 の具体的データを下記に示した。

(377, 151) 151 が同環である。

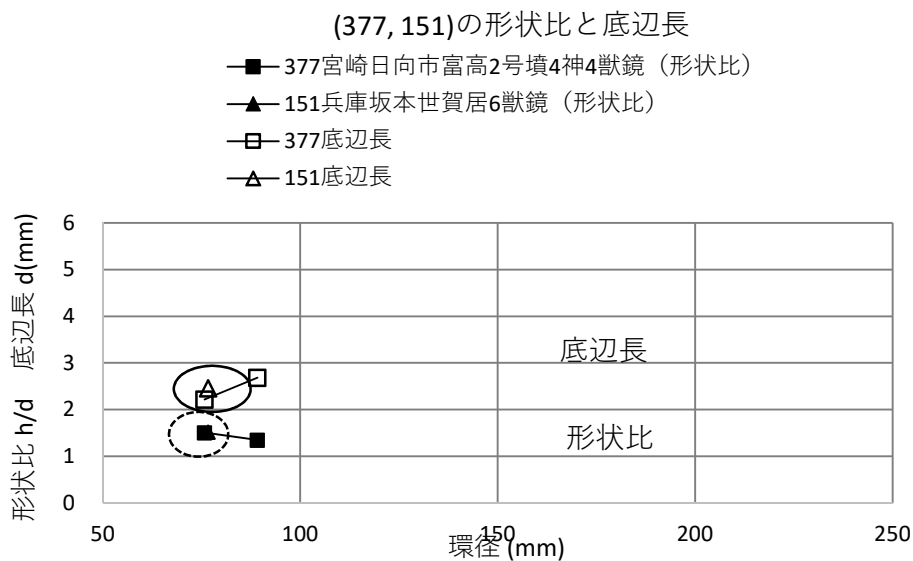


図 5-5 (377, 151)の形状比と底辺長

378 宮崎市陣ヶ平 4 獣鏡（鏡径 109 mm）の同環鏡

378 も 377 と同様に、三角縁神獣鏡に同環鏡も同数鏡もない。

106 三重保子里ダ龍鏡、151 兵庫坂本世賀居 6 獣鏡が 377 と共通して同環である。

378 は 254 の太平元年（256 年）鏡と同環であるので、中国鏡である。

表 5-8 378 宮崎市陣ヶ平 4 獣鏡（鏡径 109 mm）の同環鏡

378 宮崎市陣ヶ平 4 獣鏡（鏡径 109 mm）の同環鏡（環径 76, 68, 61mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
106	三重保子里ダ龍鏡	139	76	
109	足利十二塚内行花文鏡	141	76	
136	前橋天神山変形獣形鏡	165	76	
151	兵庫坂本世賀居 6 獣鏡	136	76	
163	前橋天神山変形獣形鏡（136 と同じ）	165	76	
196	江田船山獣形鏡	89	68	
254	太平元年（256 年）同向式神獣鏡	98	68	中国

表 5-9 378 宮崎市陣ヶ平 4 獣鏡（鏡径 109 mm）の同数鏡

378 宮崎市陣ヶ平 4 獣鏡（鏡径 109 mm）の同数鏡（環径 76, 68, 61mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
14	新山西王母三角縁神獣鏡	226	76	
143	栃木十二天塚変形内行花文鏡	141	76	
192	江田船山獣文帯鏡	178	61	
284	柳井茶白山ダ龍鏡	450	61	

378 の具体的データを下記に示した。

(378, 151)

151 が同環である。

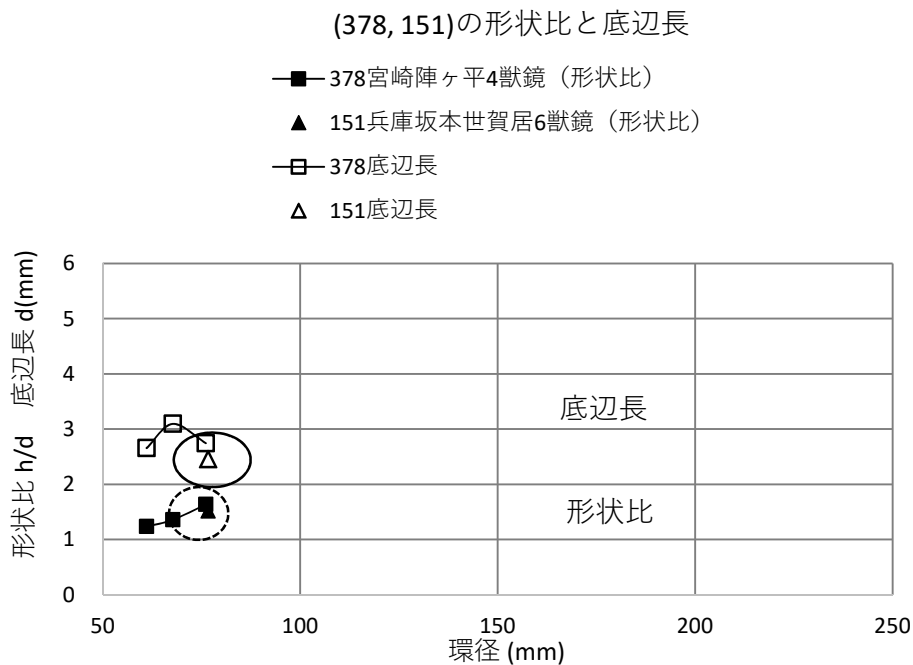


図 5-6 (378, 151)の形状比と底辺長

379 宮崎市日南市油津画文帯神獣鏡 (鏡径 209 mm) の同環鏡

379 は同環鏡が 244 の 1 面のみであった。それも環径の一致はよくない。三角縁神獣鏡の同環鏡、同数鏡はない。

379 は形状比が小さいため、200, 206, 330 の 3 面の中国鏡と同数となった。379 は形状比が小さい後漢時代の中国鏡と考えられる。

表 5-10 379 宮崎市日南市油津画文帯神獣鏡 (鏡径 209 mm) の同環鏡

379 宮崎市日南市油津画文帯神獣鏡 (鏡径 209 mm) の同環鏡 (環径 158mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
244	斜縁伯氏伍子胥鏡	207	158	中国

表 5-11 379 宮崎市日南市油津画文帯神獸鏡（鏡径 209 mm）の同数鏡

379 宮崎市日南市油津画文帯神獸鏡（鏡径 209 mm）の同数鏡（環径 158mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
200	衛門戸丸塚画文帯神獸鏡	221	158	
206	南齊建武 5 年銘画文帯神獸鏡	242	158	中国
330	西求女塚 7 号田氏作神人龍虎画像鏡	185	158	

379 の具体的データを下記に示した。

(379, 200) 200 が同数である。

(379, 200)の形状比と底辺長

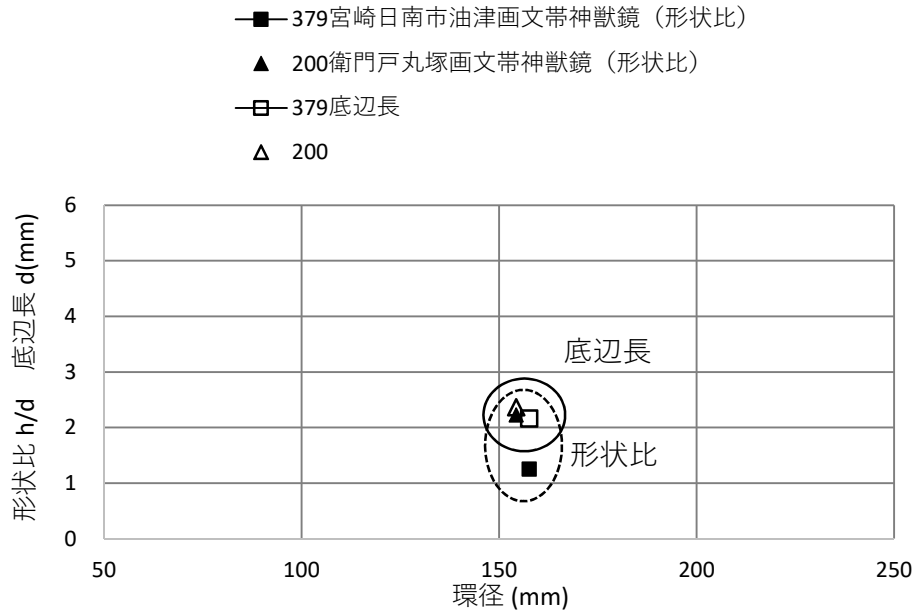


図 5-7 (379, 200)の形状比と底辺長

九州鏡（その1）、（その2）のまとめ

九州鏡（その1）、（その2）全体のまとめを下表に示した。

九州の古墳には中国鏡とともに三角縁神獣鏡が納められている。

当然のことであるが、それらの三角縁神獣鏡は全国に配られた神獣鏡と同様の陳是・陳氏作品であることがわかる。

すなわち、九州においても、大和朝廷から三角縁神獣鏡が配布されたのである。

表 5-12 九州鏡（その1）、（その2）のまとめ

通し番号	鏡の名称	出土古墳	鏡径 (mm)	当検討での判定
36	大分亀甲山三角縁波文帯 3 神 3 獣鏡	大分亀甲山古墳	215	陳是作品の 21 安満宮山 5 号陳是作平縁同向式神獣鏡と同環である。36 は陳是作品である。
63	福岡藤崎三角縁盤龍鏡	福岡藤崎古墳	245	63 は自ら三角縁神獣鏡であり、かつ多くの他の三角縁神獣鏡と同環であるので、陳是作品である。
180	180 一貴山銚子塚吾作甚獨奇銘三角縁 3 神 3 獣鏡	一貴山銚子塚古墳	212	55 神奈川大塚山陳氏作三角縁 4 神 2 獣鏡と同環であるので、陳氏作品である。
181	福岡立岩方格規矩鏡	福岡立岩古墳	200	181 は L 字が右曲がりであるので中国鏡である。陳是はこの 153 mm の環径で多くの同環鏡と同数鏡を作った。
183	福岡立岩重圈清白銘鏡	福岡立岩古墳	154	183 は第 1 環（最大環）で形状比と底辺長が 2 付近に集まるという一部の中国鏡特有の特性を有しているため中国鏡であ

232	宮崎持田 25 号墳火鏡銘 4 獣鏡	宮崎持田古墳	145	る。 232 は第 2 環で形状比と底辺長が 2 付近に集まるとい部 の中国鏡特有の特性を有しているため中国鏡である。
245	大分豊後高田鑑堂劉氏作神 人車馬画像鏡	大分豊後高田鑑堂 古墳	201	245 は劉氏作銘であるから中国鏡である。同環の三角縁神獣鏡は 245 の鋸歯環を借用したと考えられる。
371	371 佐賀谷口三角縁 3 神 3 獣鏡	佐賀谷口古墳	216	371 の同環鏡は多い。371 は作者が同一の鋸歯環で多くの鏡を作ったいわば標準的な三角縁神獣鏡である。2 環であるので初期の 陳是作品 である
372	佐賀谷口捩文鏡	佐賀谷口古墳	81	同じ小径の 196 江田船山獣形鏡と同径である。両者は 中国製 である。
373	大分亀甲山重圈文鏡	大分亀甲山古墳	57	373 は小径の中国鏡と環径と底辺長の関係に類縁関係にあり、中国鏡である。
374	374 福岡那珂三角縁 5 神 4 獣鏡	福岡那珂古墳	218	374 の同環鏡は多い。374 は最も一般的な三角縁神獣鏡であることを示している。
375	375 福岡原口三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	ふくおか 原口古墳	219	375 は同環鏡が多い。三角縁神獣鏡の同環鏡も多い。作者銘も陳是から後代の

				張是、張氏にまでわたっている。
376	福岡小郡市下鶴 4 獣鏡 (鏡径 106 mm)	福岡小郡市下鶴	106	140 と 138 の底辺長が 376 と直線をなす。 これらは小径であり、環径が鏡径に逆比例するという傾向を有しているので、ともに中国製である。
377	宮崎日向市富高 2 号墳 4 神 4 獣鏡	宮崎日向市富高 2 号墳	118	377 は三角縁神獣鏡の同環鏡も同数鏡もない特徴がある。124 などの中国鏡と同環であるので 377 は中国鏡である。
378	378 宮崎市陣ヶ平 4 獣鏡	宮崎市陣ヶ平古墳	109	378 も 377 と同様に、三角縁神獣鏡に同環鏡も同数鏡もない。 378 は 254 の太平元年 (256 年) 鏡と同環であるので、中国鏡である
379	379 宮崎市日南市油津画文帯神獣鏡 (鏡径 209 mm)	宮崎市日南市油津古墳	209	三角縁神獣鏡の同環鏡、同数鏡はない。 中国鏡と同環、同数であるので 379 は中国鏡である。

6 邪馬台国の位置の推定

景初3年(239年)卑弥呼が魏に遣使したとき、大和では、大和朝廷の支援を受けて、渡来工人の陳是・陳氏が三角縁神獸鏡を大々的に作り始めた。そして大和朝廷は、邪馬台国などの離反勢力の駆逐のための味方作りにそれらの三角縁神獸鏡を全国に配布し始めた。

この状況は、魏志倭人伝の、邪馬台国が、内紛と他国からの攻勢に悩まされているという記述と、邪馬台国が大和朝廷の敵側であったとすれば、合致する。そして、三角縁神獸鏡が大和を中心に全国に拡散している事実とも一致する。

時期も景初3年(239年)以降の時期であることも、魏志倭人伝と三角縁神獸鏡の紀年銘鏡から確認される。

大和にすでに大和朝廷があるとすれば離反勢力の邪馬台国などは大和から離れた位置にあることは容易に推測される。したがって、邪馬台国は本州や四国ではなく、九州にあったことになる。

また邪馬台国は海を越えて魏と通交しているのであるから、海上の通行に便利なところであると推測される。

三角縁神獸鏡は全国に配布されているが、問題の九州にも配布されている。それらの地域は大和朝廷に一応服従していたと考えられる。そうであれば、九州の遺跡に三角縁神獸鏡のでない場所があれば、そこが邪馬台国であると推定できる。

この論理で、前述のように、九州の古墳出土の鏡の同環鏡を探索してきた。

そして、多くの九州の古墳には、勿論中国鏡もあるが、三角縁神獸鏡もあり、それらの三角縁神獸鏡が、陳是・陳氏作品であり、全国に配布された三角縁神獸鏡と全く同等のものであることを前述のように確認した。

そして、三角縁神獸鏡の出ていない古墳は、江田船山古墳であることを確認した。

最終的に邪馬台国の位置は江田船山古墳周辺であることになるのである。

以下それを確認してみることにする。

三角縁神獸鏡の全国の分布状態

三角縁神獸鏡の全国での分布状態を文献から転載した。

日本の歴史② 倭人争乱 (田中 琢 集英社 1991年)での三角縁神獸鏡の全国での出土地点を示した(付図1)。

三角縁神獸鏡は、西は宮崎県から東は群馬県まで分布している。

そして熊本県北部は三角縁神獸鏡の空白域になっている。

付図の著者は図の説明で、大和の勢力が中国の権威をカサに全国に勢力を伸ばそうとしたと書いているが、配られた鏡の銘は、あくまでも、配られて側の家運隆盛を願っているもので、あくまでも低姿勢である。これは、当時の大和政権が文治政治を目指していたことを示している。これは大和朝廷の今後の伝統になった気がする。鏡が権力の象徴のように考えられているのが一般的であるが、鏡の銘文からはそのようには見えない。また三角縁神獸鏡が中国鏡をよそおったのはあくまでも、その方が珍重されると思ったからである。



155 三角縁神獸鏡の出土地点 三角縁神獸鏡は中国王朝の権威の象徴だ。その権威を利用した勢力が大和にあった。それが配布した三角縁神獸鏡は九州島から本州島東部まで出土する。

付図1 (日本の歴史② 倭人争乱 田中 琢 集英社 1991年 p240)

陳是・陳氏の作者銘ごとの鏡の分布状態を文献から以下に示した (付図2)。

これも同様に大和を中心に分布していることがわかる。

ついでながらこの文献では、著者の藤田友治氏は陳是のグループは三国対立の時代を忌避して亡命してきた (p104) と述べているが、本論では、陳是・陳氏は日本の豊富な**銅地金**を目当てに渡来したと考える。陳是・陳氏は小径の鏡しか作れない魏の銅不足に飽き飽きし、銅地金の豊富な日本に渡来し、三角縁神獸鏡を中心とした大型銅鏡を作ったのである。

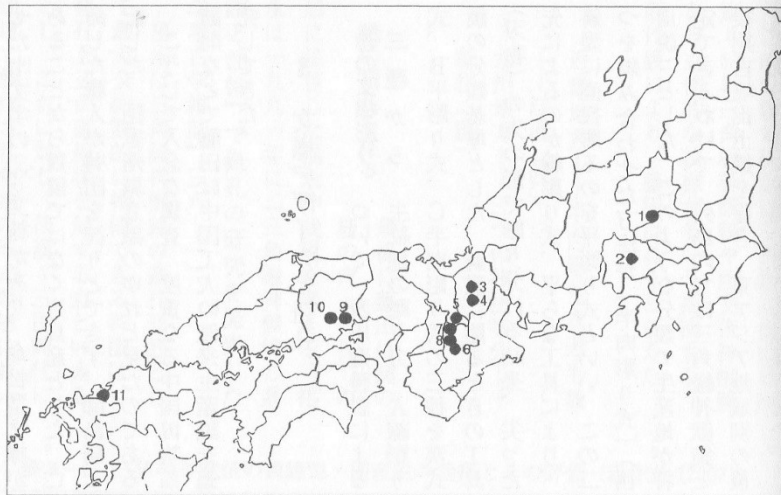


図9-4 陳氏作銘鏡分布図

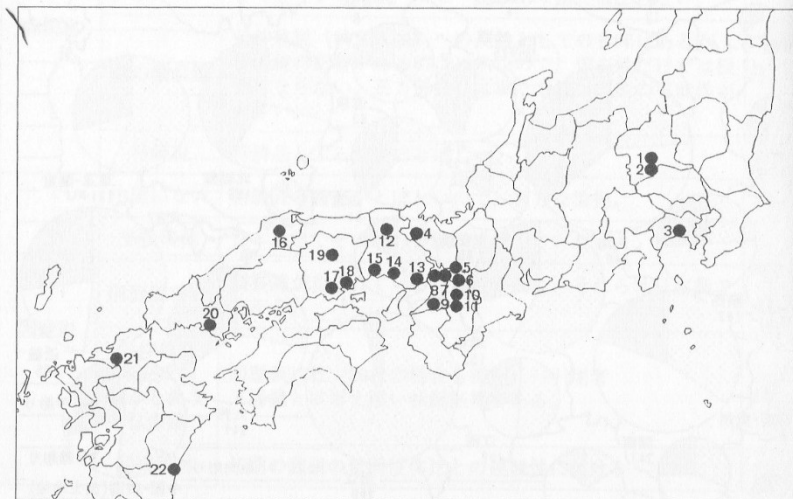


図9-5 陳是作銘鏡22面分布図

附図2 (ゼロからの古代史事典 藤田友治 ミネルヴァ書房 2012年 p105)

上記の複数の地図を見ると、九州地方にも三角縁神獸鏡、陳是・陳氏銘鏡は配布されていることがわかる。九州にも親大和朝廷勢力はあったのである。

ここで改めて九州出土の三角縁神獸鏡を確認するために、「三角縁神獸鏡と古墳社会」岩本 崇、2020年、六一書房 のp493-494、附表三角縁神獸鏡出土地名表 から九州出土鏡を抜粋して下表に示した。

これによれば、九州地方にも三角縁神獸鏡は満遍なく配られていることがわかるが、熊本県では、江田船山古墳が表中になく、本論でも調べたように江田船山古墳では三角縁神獸鏡がないことが確認される。

表 6-1 三角縁神獸鏡が出土した九州内の古墳

県	市町村名	古墳名	備考
鹿児島県	薩摩川内市	新田神社	1 面
宮崎県	西都市	西都原 13 号墳	1 面
	高鍋町	持田 48 号墳	1 面
		持田古墳群	1 面
熊本県	葦北郡	葦北郡	3 面
	八代市	八代郡	1 面
	宇土市	城ノ越古墳	1 面
佐賀県	伊万里市	空路寺古墳	1 面
	唐津市	谷口古墳 西石室	4 面 J-6195 J-6196 J-6197 J-6198
福岡県	久留米市	祇園山古墳	1 面
	朝倉市	神蔵古墳	1 面
		平塚大願寺塚	1 面
	筑紫野市	原口古墳	3 面 そのうち 2 面 J-21811、 J-21812
	大野城市	御陵古墳	1 面
	那珂川市	妙法寺 2 号墳	1 面
	糸島市	一貴山銚子塚古墳	8 面
		二丈町付近	1 面
		大日古墳	2 面
	福岡市	卯内尺古墳	1 面 J-39134
		老司古墳 3 号石室	1 面
		藤崎 6 号方形周溝墓	1 面
		藤崎遺跡	1 面 J-6736
		若八幡宮古墳	1 面
		那珂八幡古墳	1 面
香住ヶ丘 3 丁目古墳		1 面	
天神森古墳		1 面	
名鳥古墳		1 面	
飯塚市	忠隈古墳	1 面	

	宗像市	沖ノ島 16 号遺跡	1 面
		沖ノ島 17 号墳遺跡	3 面
		沖ノ島 18 号墳遺跡	5 面
		沖ノ島 18 号墳遺跡 (推定)	2 面
		沖ノ島御金蔵遺跡	1 面
		沖ノ島遺跡 (推定)	1 面
	北九州市	御座 1 号墳 東主体部	1 面
	苅田町	石塚山古墳	13 面
大分県	宇佐市	免ヶ平古墳	1 面
		赤塚古墳	5 面
		大平石棺第 3 号石棺	1 面
	大分市	亀甲山古墳	1 面 J-6780
	竹田市	七ッ森古墳群	1 面

これら九州の三角縁神獣鏡の出土した古墳の位置を地図に記入したものが下記の図である。
 前述の図と似ている。三角縁神獣鏡の出土した古墳は九州全土にわたっているが、三角縁神獣鏡の出ない江田船山古墳付近（熊本県玉名郡和水町）（旧菊水町）は空白となっている。大和朝廷は三角縁神獣鏡贈呈作戦で北九州から大分、宮崎、鹿児島と三角縁神獣鏡を配布し江田船山付近の包囲網を狭めていったと思われる。邪馬台国は卑弥呼が死んだ後の台与の時代にも博多湾への通路は確保していたのであろうが、266 年の台与の遣使以降、邪馬台国は周囲の圧迫に抗しきれずついに滅亡したと考えられる。



図 6-1 三角縁神獸鏡が出土した九州の古墳の位置（三角縁神獸鏡が出土しなかった江田船山古墳も併記した）

江田船山古墳が邪馬台国の故地であるとは、古くから指摘した人がいるらしい。邪馬台国論争（佐伯有清 岩波新書 2006年）は次のように述べている。

『やがて古谷清（1884～？）は肥後国玉名郡江田村（現 熊本県玉名郡菊水町江田）の古墳を邪馬台国関係の遺跡とみなして、その出土遺物を卑弥呼にかかわるものとする説を発表した。』（p i）

『そして梅原は（中略）特に富岡謙蔵の古鏡研究に注目した。そして梅原は、富岡が江田船山古墳出土の「6神4獣鏡」と『唐草文獣帯鏡』の2面の古鏡を「六朝時代」の代表的な作品とみなしていることに触れたのである。』（p104）

『こうして梅原は、富岡の研究にしたがい、古鏡が示すところの江田船山古墳の造営は、早くとも「六朝初期」に遡ることができないというべきであると締めくくった。つまり梅原は江田船山古墳出土の

古鏡は「三国時代」のものではなく「六朝時代」にくだる作品とし、ひいては古谷が卑弥呼らの墓かと推定した江田船山古墳を卑弥呼の墓ではないと否定したわけである。』(p105)

六朝は222年から589年の間をいうらしいが、鏡が六朝時代の鏡であるならば、それを埋蔵している古墳は当然それ以降の築造である。

ここでこの本がいう「6神4獣鏡」と「唐草文帯獣帯鏡」が本論の江田船山鏡のどれに対応するか明らかでないが、本論ではそれらが皆中国鏡であることはわかるが、三国時代製か六朝時代製かはわからない。要するに古墳自体は新しいということである。

江田船山古墳は、雄略天皇の鉄剣が出ているのであるから、卑弥呼の墓でない新しい古墳であることは明らかである。しかし、その古墳が三角縁神獣鏡の空白地帯にあることは卑弥呼の時代に大和朝廷から三角縁神獣鏡の贈与を受けない敵対地域であったことを示している。卑弥呼の後の壺与の時代に、邪馬台国が滅び、新しい支配者が生まれた。その支配者は大和朝廷の手前、卑弥呼の墓をこわしたかもしれない。卑弥呼の墓が当時は築造されていたとしても、邪馬台国滅亡後も無事に残っている可能性は少ないのではないか。江田船山地域に卑弥呼の墓が残っていても不思議はないのである。

邪馬台国跡地の新しい支配者は大和朝廷に忠実に仕え、後世雄略天皇の時代に、褒賞として鉄剣を授与されたのである。それが、江田船山古墳に納められた。

したがって、江田船山古墳は新しいが、それは、邪馬台国の跡地に建てられたもので、古墳が新しいからといって、邪馬台国跡地ではないとは言えないのである。江田船山古墳周辺は三角縁神獣鏡が出土しない唯一の九州地域であり、鉄剣が授けられた唯一の九州の古墳であることから、むしろそこが邪馬台国の故地であるといえるのである。

念のためであるが、前述の先人の江田船山古墳邪馬台国論と、本著者たちの邪馬台国江田船山地域論はまったく無関係であることを指摘しておきたい。。先人の論はおそらく物証のない推論と想像するが、本著者たちののは、青銅鏡の鋸歯文という物証に基づいたものであり、まったく性格の異なるものである。

そのような状況のときに吉野カ里遺跡はどうなるのであろうか

前述の図に吉野カ里遺跡の位置を加えた地図を下図に示した。

266年の壺与の遣使のあと、ついに大和朝廷は邪馬台国に対して武力行使に踏み切ったのである。

吉野カ里はその前進基地であったのである。吉野カ里では首のない死者の骨が見つかるが、戦闘で相手に首を取られた武将の墓と考えられる。

このような戦闘の後、邪馬台国が滅び、漸く大和朝廷による全国統一が達成された。それは3世紀末の崇神天皇の頃であった。2世紀の神武天皇による統一から、厩史8代の天皇の後であった。したがって初代の神武天皇もハツクニシラスメラミコトであり、10代の崇神天皇もハツクニシラスメラミコトとなった。

大和朝廷は、邪馬台国などの離反を不名誉なことと考え、古事記や日本書紀などの正史に残さなかった。三角縁神獣鏡の贈答作戦を考案実行した厩史8代の天皇の業績は消されてしまった。しかし、銅鏡の贈呈作戦で多数派工作を行った大和朝廷は武力行使よりは文化的な支配を目指す政権と国民に受け取られ、国生み神話とともに、国民に親しまれようになったと考えられる。すなわち、天皇家は武力では倒すことのできない、超越的な存在として後世に続くことになるのである。

三角縁神獸鏡はこのような大きな意味を生んだのである。そして、鋸齒文がそのような解析を可能としたのである。



図 6-2 前図に吉野ヶ里遺跡の位置を加えた図

7. 邪馬台国の終焉時期

前報でも述べたが、神武東征は、後漢書の述べられている倭国大乱であり、2世紀のことであると考えられる。

井上光貞氏の意見は、次のようである。『在位年代のほぼ確実にわかる 15 代応神天皇の在位年代は 370

年から 390 年である。応神天皇の 5 代前の 10 代崇神天皇の在位期間は、各天皇の在位期間を平均 20 年とすると 270 年から 290 年頃となる』(神話から歴史へ p309)

井上氏は崇神天皇以前の神武天皇とそれに続く厩史 8 代の天皇を實在しないとしているが、最近亡くなった西尾幹二氏のように實在したと考えれば、9 代掛け 20 年でさらにその 180 年前に神武東征により大和朝廷が発足したことになる。そうすると、神武天皇の在位は西暦 90 年から 110 年ということになる。平均在位期間 20 年は長すぎるかもしれないので、2 世紀のいつかに神武東征があり、初代天皇が神武天皇であり、大和朝廷が発足したことになる。これは神話とは無関係な事実である。神武天皇は神の子孫でもなく、空想上の人物でもなく、九州の有力豪族の長であったのである。神武といういささか神がかった名前は、後世の人間が、神聖化するためにつけた名前に過ぎない。ここの神武東征は古事記にあるような神話がかった話を指しているのではない。

この 2 世紀中と考えられる神武天皇の九州からの東征と大和朝廷の創設後、九州で離反が起こり、離反勢力の中心であった邪馬台国と大和朝廷との対立・並立が続いた。

その抗争の開始時期は、今はまだ明らかにできないが、景初 3 年 (239 年) に邪馬台国が魏に遣使し、一方、大和朝廷は陳是・陳氏らの中国人工人を招き、日本再統一のため、地方の諸侯を懐柔するため三角縁神獸鏡を中心とした銅鏡の配布作戦を開始した事実は明らかである。魏志倭人伝では、邪馬台国は内紛と周辺勢力からの外圧に悩まされていることが書かれており、銅鏡を全国に配布しようとしている大和朝廷とは全く国情が異なる。

その銅鏡の配布作戦はいつまで続いて、邪馬台国はいつ頃滅亡したのであろうか。

歴史書によれば、266 年、倭の女王壺与が晉に朝貢しているが、それを最後に邪馬台国の消息は途絶えている。反対に言えば、266 年まで邪馬台国は、239 年以後、20 数年間は存続していたことになる。

邪馬台国の滅亡は 266 年以降ということになる。

それでは、大和朝廷側の銅鏡配布作戦はいつまで続いたのであろうか。

それには、初代の渡来人である陳是・陳氏の後の第 2 代目の渡来人ともいうべき張氏、張氏、王氏などの銅鏡がいつ頃まで配布されたのかが決め手となる。

張氏作品で紀年銘が入っているのは、同範鏡同士の 210 河南省淇県高村泰始 9 年 (273 年) 銘鏡と 211 久保惣記念美術館蔵泰始 9 年 (273 年) 銘鏡である。久保惣記念美術館の説明では、211 には「張氏作青銅鏡・・・泰 9 年作」の銘が入っているようであるので、211 は晉の年号で泰始 9 年 (273 年) の作であることがわかる。それが、中国に同範の片方があるのであるから、作者の張氏は 273 年には中国にいたことになる。その後、日本に張是、王氏などとともに渡来し、日本で陳是・陳氏の後を継いで、三角縁神獸鏡を作ることになる。このとき、張氏たちは、鋸歯文も陳是・陳氏のものをすっかり借用した。したがって、多くの場合、張氏作品は陳是・陳氏作品と同環となる。

また、張氏・張是作品は、主に、銅鏡が大量出土した椿井大塚山古墳と黒塚古墳に含まれる。これらの古墳で銅鏡が大量に埋蔵され、また後期の作者である張氏・張是・王氏作品が含まれていることは、これらの銅鏡が、銅鏡配布作戦の末期の作品であり、かつ、銅鏡の配布の意味が薄れ、銅鏡がだぶついたことを示している。すなわち、張氏などが、銅鏡を製作していた途中で、邪馬台国は亡び、銅鏡の配布の必要がなくなったと考えられる。張氏たちは、渡来後 20 年は銅鏡を作ることができた年齢であったと考えられるので、張氏が渡来した泰始 9 年 (273 年) に近い時から 20 年以内に邪馬台国は滅亡したと考えられる。すなわち、邪馬台国の滅亡は 280 年から 290 年頃と考えられるのである。

先の井上光貞氏の推論では崇神天皇の在位期間は270年から290年頃となるので、この邪馬台国の滅亡の推定時期と全く一致する。そのとき、日本は再統一され、ときの天皇は崇神天皇であり、初代天皇の神武天皇と同じ「ハツクニシラスメラミコト」の号を与えられたのである。

銅鏡の配布作戦は景初3年(239年)頃から290年くらいまで約50年間続いたことになるが、崇神天皇は銅鏡配布作戦の成果を享受した天皇となり、それを発案し実行した最初の天皇は崇神天皇の2代から3代前の天皇の7代孝霊天皇、8代孝元天皇となる。

これらの天皇の史実は記されていないようであるが、それは、邪馬台国の反乱などが、大和朝廷の歴史としては芳しくない史実という判断で、あえて記述されなかったと考えられる。記述されていない空白の時間帯にこのような大ドラマがあったのである。

江田船山地域が邪馬台国であった事実は、後世21代の雄略天皇による鉄剣の贈与によっても補強される。大和朝廷では、旧邪馬台国地方の動静がその後も気がかりであったが、うまく治まり、その褒賞として鉄剣を特別に授与したのである。

国内で出土した銅鏡の数は大変な数である。著者たちは重複したものを含め379面の鏡の鋸歯文を測定し、それらの同環鏡を探索したが、まだまだ、未調査の鏡は多数あるのである。しかし、傾向は確実に把握できたと考えられる。

ここで驚かされるのは、これら大量の銅鏡を国内で製作した技術力と経済力である。

これらの大量の銅鏡、しかも大型の銅鏡が国内で製作されたとすれば、日本の古代史は、いままでの通説とは全く異なるのである。

まず、金属地金の問題である。日本では、奈良時代の和銅元年(708年)に初めて日本で銅の地金が製錬されたとされ、それ以前の銅鐸や銅鏡は、大陸からの輸入の銅剣などを鑄潰して作られていたと説明されていた。まことにおかしい話である。銅地金を輸入に頼っている国に中国人工人が渡来し、同時代の魏時代の中国にない大型の銅鏡を作れるはずがないからである。

銅地金を輸入に頼り、かつそのような貴重な銅を、鎮撫のための銅鏡に大量に使用したとすれば、大和朝廷は大変な専制王朝となる。しかし、そのような史実はまったくないのである。

銅鏡の重量はなぜか文献にでていないので、平均厚さ3mm、鏡径220mm、銅濃度80%で計算すると、1面辺り800グラム程度の重量となる。大まかにいえば、銅鏡1面辺り1kg程度の銅地金を消費することになる。

年間生産量100枚であると、年間100kgとなるので、大和朝廷は年間数百キロの銅地金を銅鏡に消費したと考えられる。数百キロとはいえ、これを大陸から船に乗せて運び、陸路をまた数百キロも運んだのだろうか。現代の船であれば、朝鮮海峡を渡るのは難なくこなせるであろうが、古代の船では非常に困難なことではないか。航海の安全を祈って人身御供まで立てたといわれる。

日本人は、銅資源の豊富な国土の上で生活している。その資源を利用しないで、はるばる大陸から多大の犠牲を払って、和銅元年の時代まで、凡そ1000年間も同時地金を輸入しつづけたのであろうか。

我々日本人技術者は古来、外来技術を瞬く間に国産化してきた。古代人技術者が例外であるとは考えられないのである。答えはおのずと明かである。

以下に、邪馬台国の終焉時期を決める重要な手掛かりとなった張氏、張是、王氏銘鏡の同環鏡調査結果を

述べる。

張氏・張是・王氏作銘鏡の同環鏡

陳是・陳氏が景初3年(239年)の直前に日本に渡来し、青銅鏡を作り始めた約30年後、泰始9年(273年)頃、張氏、張是、王氏などが渡来し、陳是・陳氏の事業を継承した。

彼ら、張氏、張是、王氏が作った青銅鏡はどのようなものであるかを、それらの鋸歯文を調査することによって以下に示した。

211 久保惣記念美術館蔵泰始9年(273年)銘鏡の同環鏡

久保惣記念美術館、蔵鏡図録によれば、「泰始9年張氏作」半円方格神獸文鏡、西晋時代となっている。211は273年の張氏作品であることがわかる。

211 久保惣記念美術館蔵泰始9年(273年)銘鏡(鏡径177mm)の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

211は張氏により泰始9年(273年)に作られた中国鏡である。出土地は分からないらしい。210 河北省淇県泰始9年銘鏡と同范であるので、中国鏡であることは確かである。

環径99mmの鋸歯環は117 九氏環状乳神獸鏡(2世紀後半から3世紀前半)や212 安徽省寿県出土鏡と同じである。張氏は渡来後、130mmの環径の鋸歯環で三角縁神獸鏡の7や62などを作った。

表 7-1 211 久保惣記念美術館蔵泰始9年(273年)銘鏡(鏡径177mm)の同環鏡

211 久保惣記念美術館蔵泰始9年(273年)銘鏡(鏡径177mm)の同環鏡(環径130, 99mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
7	京都長法寺南原三角縁3神3獸鏡	227	130	
62	山口宮の洲三角縁波文帯盤龍鏡	244	130	
117	九氏環状乳神獸鏡(2世紀後半から3世紀前半)	140	99	中国
212	安徽省寿県出土鏡	143	99	中国
292	雪野山三角縁波文帯盤龍鏡	247	130	
310	椿井大塚山16 獸文帯4神4 獸鏡	232	130	
332	西求女塚9号三角縁吾作銅出徐州銘4神4 獸鏡	224	130	

表 7-2 211 久保惣記念美術館蔵泰始9年(273年)銘鏡(鏡径177mm)の同数鏡

211 久保惣記念美術館蔵泰始9年(273年)銘鏡(鏡径177mm)の同数鏡(環径130, 99mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
90	香川猫塚吾作銘4 獸鏡	140	99	
118	九氏対置式神獸鏡(2世紀後半から3世紀前半)	140	99	中国
119	呉造対置式神獸鏡(3世紀前半)	150	99	中国
325	椿井大塚山36 画文帯神獸鏡	138	99	

369	黒塚棺内面文帯神獸鏡	135	99	
-----	------------	-----	----	--

211 の具体的データを以下に示した。

(211,62)

62 山口宮の洲三角縁波文帯盤龍鏡が 211 と同環である。62 は三角縁神獸鏡である。張氏は自作の環径 230 mm の鋸齒環で 62 を作った。62 は張氏の渡来後の作品である。

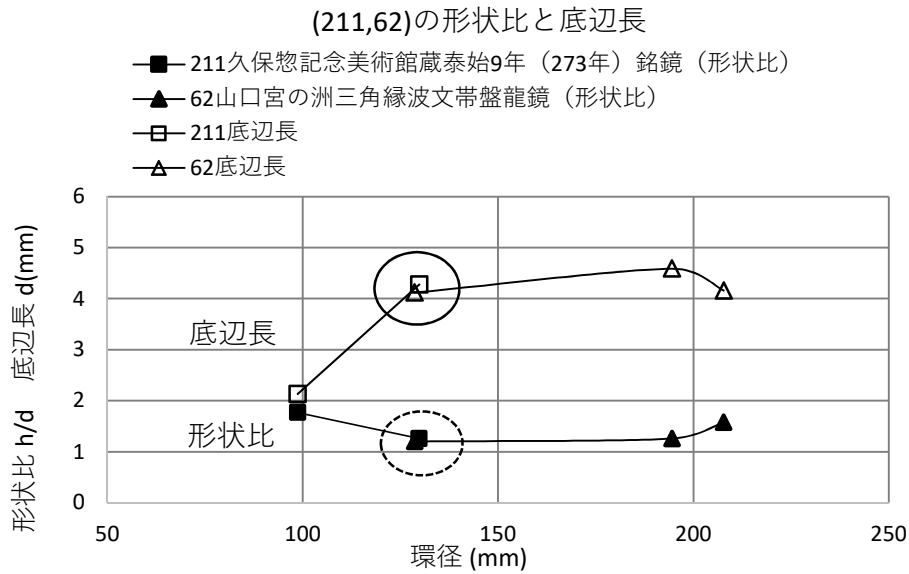


図 7-1 (211, 62)の形状比と底辺長

(211,212)

212 は、環径は少しずれるが、211 と同環である。中国境である 212 は形状比と底辺長が 2 付近に集まる特徴を示している。

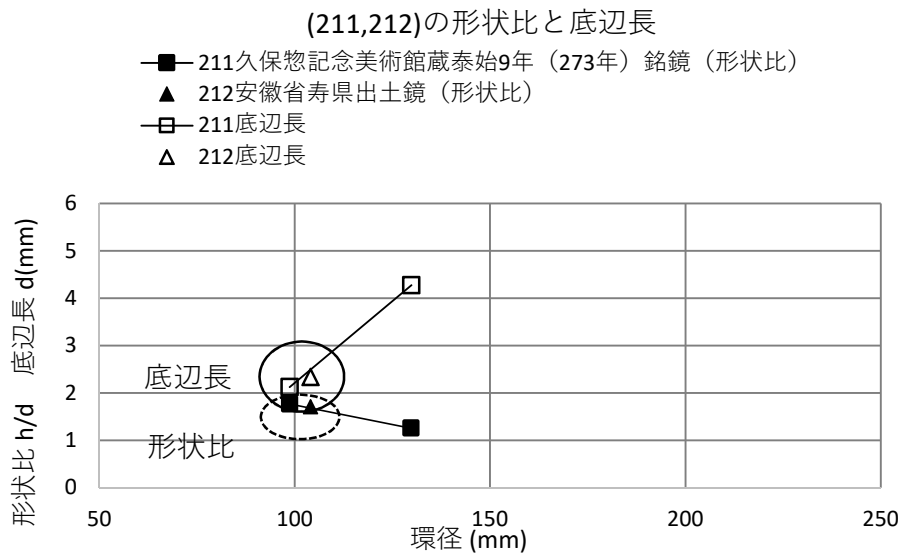


図 7-2 (211, 212)の形状比と底辺長

(211,212)

212 は、環径は少しずれるが、211 と同環である。中国境である 212 は形状比と底辺長が 2 付近に集まる特徴を示している。

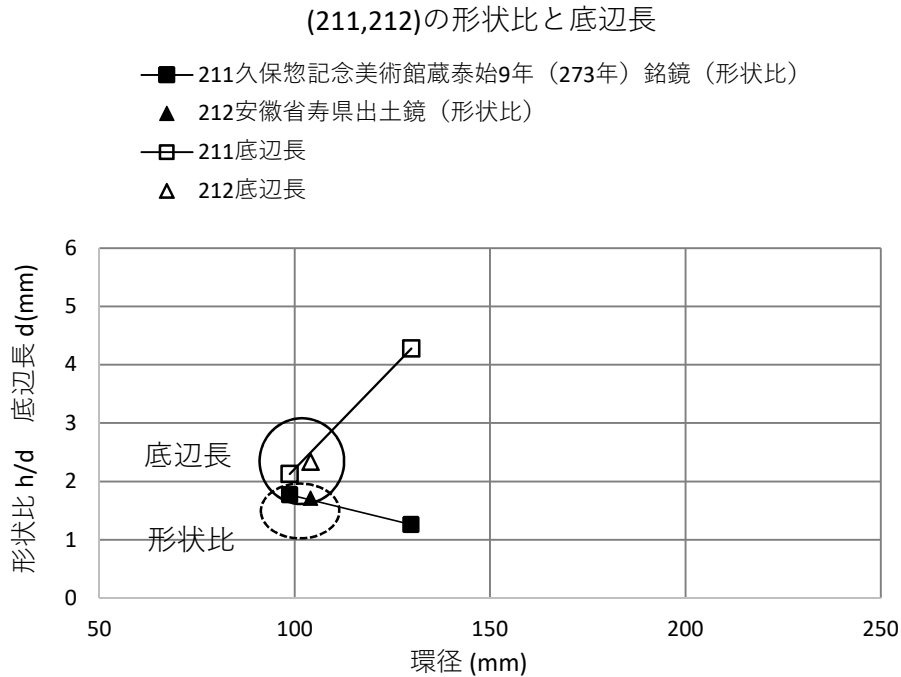


図 7-3 (211, 212)の形状比と底辺長

300 椿井大塚山 6 張氏作 4 神 4 獸鏡の同環鏡

京都大学文学部発行、思文閣出版発売の「椿井大塚山古墳と三角縁神獸鏡」（平成元年 1989 年）によれば、椿井大塚山古墳からは 32 面の三角縁神獸鏡が出土し、そのうち 29 面が完形に復元できているとされる。他の種類の鏡も含めて 36 番までの番号が振られている。その番号順に鋸歯文を調べた。鏡名の前に当方の通し番号をつけた。

椿井大塚山出土の張氏・張是銘鏡は以下の 3 面である。

300 椿井大塚山 6 張氏作 4 神 4 獸鏡（鏡径 238 mm）

301 椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獸鏡（鏡径 226 mm）

322 椿井大塚山 28 張是作 4 神 4 獸鏡（鏡径 218b mm）（361 黒塚 26 号張是作三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡と同範）

下表に 300 の同環鏡と同数鏡をまとめて示した。多くの三角縁神獸鏡と同環である。

300 は張氏作銘である。図像が陳是作品よりも大きい特徴がある。

特に、陳是作銘の鏡が 2 面も同環である。300 の作者の張氏は、陳是作品の鋸歯文を踏襲した。

ここに現れた同環鏡のうち神獸の図像の小さいほとんどのものは陳是作品である。

この 300 は張氏が日本渡来後、陳是・陳氏に倣って日本で作成した三角縁神獸鏡の一つなのであろう。300 の作者の張氏は環径 170 mm の環で同環である三角縁神獸鏡を倣ったため、はるか前の 165 佐賀桜馬場方格規矩鏡や 167 岐阜城塚青蓋鏡と結果的に同数となり、また環径 161 mm の環で同環である三角縁神獸鏡に倣ったため、これまた少し前の景初 3 年銘鏡の 91 と結果的に同数となったのである。300 は原典では、「張氏作鏡眞大功」などの銘文があり、写実派に属するとある。

表 7-3 300 椿井大塚山 6 張氏作 4 神 4 獸鏡（鏡径 238 mm）の同環鏡

300 椿井大塚山 6 張氏作 4 神 4 獸鏡（鏡径 238 mm）の同環鏡（環径 192,170,161mm）

通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
37	岐阜長塚三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	216	161	
50	兵庫二ツ塚 4 号三角縁 3 神 3 獸鏡	220	161	
57	岡山車塚陳是作 4 神 2 獸鏡	220	161	
61	京都長法寺南原三角縁鋸齒文帯 4 神 4 獸鏡	230	161	
72	岡山車塚三角縁 6 神 6 獸鏡	221	170	
240	鴨都波②斜縁波文帯 2 神 4 獸鏡	207	170	
247	造山 1 号墳三角縁神獸鏡	240	192,170	
294	雪野山しん出銘三角縁 4 神 4 獸鏡	242	161	
298	椿井大塚山 4 櫛齒文帯 4 神 4 獸鏡	221	170	
304	椿井大塚山 10 獸文帯 4 神 4 獸鏡	233	161	
318	椿井大塚山 24 陳是作 4 神 2 獸鏡（57 と同範）	220	161	
356	黒塚 21 号張氏作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	237	すべて	

表 7-4 300 椿井大塚山 6 張氏作 4 神 4 獸鏡（鏡径 238 mm）の同数鏡

300 椿井大塚山 6 張氏作 4 神 4 獸鏡（鏡径 238 mm）の同数鏡（環径 192,170,161mm）

通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
1	国分茶白山用青同銘三角縁 4 神 2 獸鏡	222	161	
91	景初 3 年（239 年）銘大阪黄金塚画文帯同向式神 獸鏡	233	161	
165	佐賀桜馬場方格規矩鏡	230	170	
167	岐阜城塚青蓋鏡	200	170	
246	大成三角縁神獸鏡	239	161	
299	椿井大塚山 5 櫛齒文帯 4 神 4 獸鏡	221	170	

300 の具体的データを以下に示した。

(300,57)

57 岡山車塚陳是作三角縁 4 神 2 獸鏡が同環である。57 は陳是作銘である。300 は張氏作銘である。張氏作の鏡が、どうして陳是作の鏡と合同の鋸齒環を持つのであろうか。この張氏は 211 久保惣記念美術館蔵泰始 9 年 (273 年) 銘鏡の作者の張氏と同じ張氏と考えられる。筆者たちは、この張氏が、陳是・陳氏達と同様に、日本に渡来し、陳是・陳氏の跡を継いで、日本で三角縁神獸鏡を作り続けたと考える。その結果、かなりの数の張氏作銘の鏡と、張氏作銘はないが、張氏作品と考えられるかなりの数の鏡が残ったのである。

張氏は渡来後、陳是の作品の傾向を着実に継承し、鋸齒環も陳是・陳氏の鋸齒環を借用したのである。したがって、張氏作品が陳是作品と同環となった。ただ、張氏作品は、図像が大柄であるなどの特徴があるように思われる。

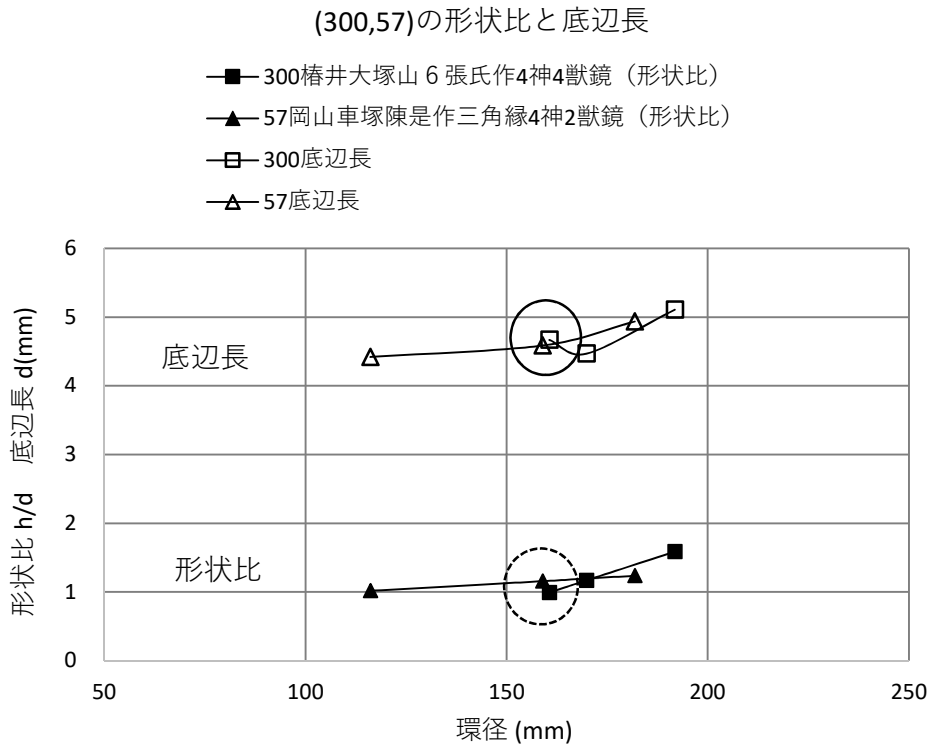


図 7-4 (300, 57) の形状比と底辺長

301 椿井 7 張氏作 3 神 5 獸鏡の同環鏡

301 は張氏作銘である。301 も多くの三角縁神獸鏡と同環である。

301 は張氏作銘であるが、陳氏、張是作銘鏡と同環であり、張氏は渡来後陳是・陳氏作品を忠実に倣ったと思われる。

特に陳氏作銘の 93 (95 と同范) と鋸齒文が 3 環で一致しており、これを手本としたと考えられる。それ

によって、他の鏡と自動的に同環となっている。

したがって、陳是・陳氏銘鏡と同様に、中国鏡の 172 の石氏鏡と同環であり、陳是の中国時代の作品である 262 聖仏鎮鏡とも同環である。さらに、多くの陳是・陳氏作鏡とも同環である。

同じ椿井鏡同士でも、多くの椿井鏡と鋸齒文を共有している。

原典では、写実派に分類されている。作者の張氏についての言及はない。

表 7-5 301 椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獣鏡（鏡径 226 mm）の同環鏡

301 椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獣鏡（鏡径 226 mm）の同環鏡（環径 186,162,155,116mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
5	神戸へボソ塚三角縁 3 神 2 獣鏡	217	162	
11	前橋天神山三角縁 5 神 4 獣鏡	223	162,155	
15	椿井 M31 号三角縁 3 神 5 獣鏡（315 と同じ）	215	162	
37	岐阜長塚三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	216	116	
70	京都百々ヶ池三角縁 2 神 2 獣鏡	224	すべて	
93	岡山車塚陳氏作三角縁 2 神 2 車馬鏡（95 と同范）	222	116,162,186	
95	山梨銚子塚陳氏作神獣車馬鏡（93 と同范）	221	116,162,186	
127	岡山鶴山丸山変形方格規矩 4 神鏡（148 と同じ）	170	116	
162	京都百々ヶ池変形獣帯鏡	215	162	
172	石氏作永元 3 年（91 年）画像鏡	250	186	中国
185	新山尚方作三角縁神獣鏡	223	162,186	
203	黒塚三角縁（2）	227	同范	
216	沖ノ島三角縁 2 神 2 獣鏡	222	116	
240	鴨都波②斜縁波文帯 2 神 4 獣鏡	207	116	
262	聖仏鎮円圈規矩鳥文鏡	155	116	中国
280	黒塚 18 号張氏作 3 神 5 獣鏡	226	同范	
313	椿井大塚山 19 吾作 4 神 4 獣鏡	226	186,162	
314	椿井大塚山 20 吾作 3 神 5 獣鏡	225	すべて	
319	椿井大塚山 25 獣文帯 2 神 2 獣鏡	220	186,162,116	
322	椿井大塚山 28 張是作 4 神 4 獣鏡	218	162,155,116	
327	西求女塚 3 号三角縁 3 神 5 獣鏡	225	116	
346	黒塚 11 号三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡	220	162	
348	黒塚 13 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡（322、361 と同范）	218	116	
350	黒塚 15 号三角縁獣帯 4 神 4 獣鏡	222	155	
351	黒塚 16 号張氏作銘三角縁銘帯 3 神 5 獣鏡（353	227	すべて	

	と同範)			
353	黒塚 18 号張氏作銘三角縁銘帯 3 神 5 獣鏡 (351 と同範)	226	すべて	
360	黒塚 25 号三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡 (346 と同範)	220	162	
361	黒塚 26 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡 (322 と同範)	218	162, 155	
363	黒塚 28 号三角縁獣帯 4 神 4 獣鏡 (320 と同範)	225	162, 155	
370	王趁意氏提供鏡	183	162	

表 7-6 301 椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獣鏡 (鏡径 226 mm) の同数鏡

301 椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獣鏡 (鏡径 226 mm) の同数鏡 (環径 186,162,155,116mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
36	大分亀甲山三角縁波文帯 3 神 3 獣鏡	215	155	
83	奈良佐味田宝塚三角縁対置式神獣鏡	218	186	
88	大阪郡川西塚尚方作神人歌舞像鏡 (155 と同じ)	206	155	
150	群馬三本木斜縁 2 神 2 獣鏡	154	116	
181	福岡立岩方格規矩鏡	200	155	
224	東京亀塚神人歌舞画像鏡	208	155	
315	椿井大塚山 21 吾作 3 神 5 獣鏡	215	162	
241	鴨都波③斜縁波文帯 3 神 3 獣鏡	214	155	
324	椿井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡	184	162	

322 椿井 28 張是作 4 神 4 獣鏡の同環鏡

椿井大塚山古墳から出土した張是作品の一例として 322 椿井 28 張是作 4 神 4 獣鏡を採りあげる

322 は同環鏡が多い。底辺長が 4 mm 程度と最も集中している領域にあるからである。多くの三角縁神獣鏡と同環である。

さらに 322 は張是作となっている。そうすれば、これと同環の鏡は張是作なのであろうか。そうではなく、張是は陳是・陳氏の鏡 (例えば、14、320 など) の鋸歯文構造を丸写ししたため、これらの鏡と同環になったと考えられる。したがって、322 は陳是・陳氏鏡と同一の挙動をする。すなわち、陳是が手本とした永平 7 年作銘の後漢鏡 166 と同環となる。また張氏作品の 301 と同環となる。

表 7-7 322 椿井大塚山 28 張是作 4 神 4 獸鏡（鏡径 218 mm）の同環鏡

322 椿井大塚山 28 張是作 4 神 4 獸鏡（鏡径 218 mm）の同環鏡（環径 181,162,154,115mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
14	新山西王母三角縁神獸鏡	226	すべて (同範ではない)	
35	兵庫三つ塚三角縁 3 神 3 獸鏡	215	154	
36	大分亀甲山三角縁波文帯 3 神 3 獸鏡	215	154	
52	兵庫女塚三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	221	162	
67	滋賀野洲富波三角縁 2 神 2 獸鏡	218	115	
70	京都檉原百々ヶ池三角縁 2 神 2 獸鏡	224	115	
154	兵庫笹倉亀山画文帯同向式神獸鏡	148	115	
155	八尾郡川画像鏡	206	154	
166	永平 7 年（64 年）尚方作獸帯鏡	190	162	中国
241	鴨都波③斜縁波文帯 3 神 3 獸鏡	214	181,154	
301	椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獸鏡	226	154,115	
319	椿井大塚山 25 獸文帯 2 神 2 獸鏡	220	115	
320	椿井大塚山 26 獸文帯 4 神 4 獸鏡	224	すべて (同範ではない)	
323	椿井大塚山 29 波文帯盤龍鏡	245	181	
348	黒塚 13 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	218	181	
350	黒塚 15 号三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	222	181, 162, 154	
361	黒塚 26 号三角縁張是作銘銘帯 4 神 4 獸鏡 (322 と同範)	218	すべて (同範)	
374	福岡那珂三角縁 5 神 4 獸鏡	218	115	
375	福岡原口三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	219	181, 162	

表 7-8 322 椿井大塚山 28 張是作 4 神 4 獸鏡（鏡径 218 mm）の同数鏡

322 椿井大塚山 28 張是作 4 神 4 獸鏡（鏡径 218 mm）の同数鏡（環径 181,162,154,115mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
181	福岡立岩方格規矩鏡	200	154	
185	新山尚方作三角縁神獸鏡	223	162	
324	椿井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡	184	154	

322 の具体的データを以下に示した。

(322,320)

椿井鏡同士の 320 が同環である。鋸歯文構造全体で同じである。ただ、図像は異なる。張是は陳是作品の 320 の鋸歯文をそっくり真似して、322 に違う図像を描いたのである。

張是作品は図像が大きい特徴がある。

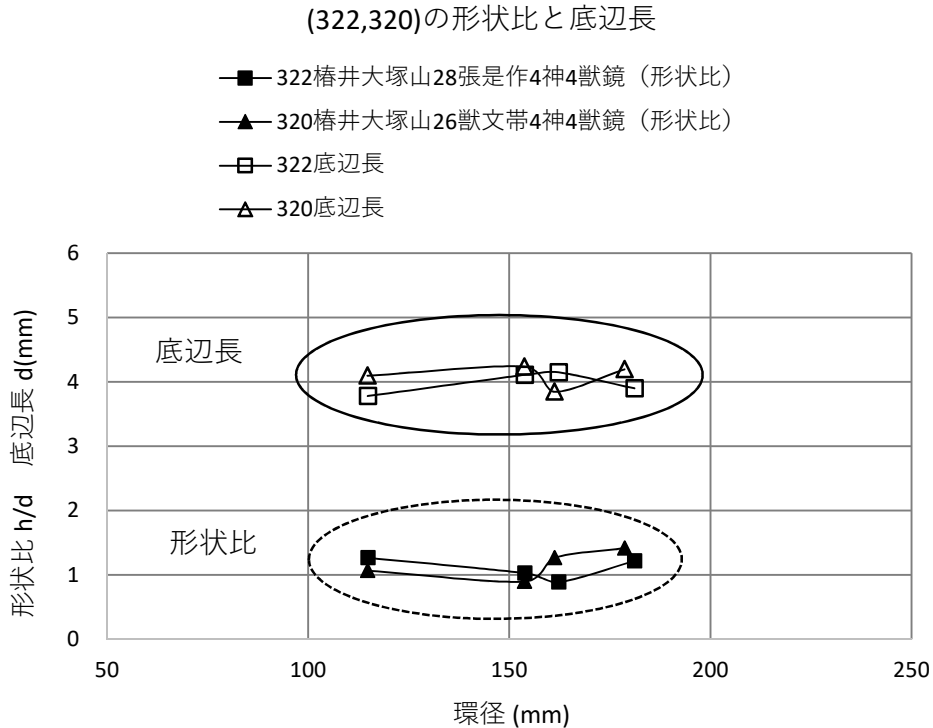


図 7-5 (322, 320)の形状比と底辺長

ここまでの椿井大塚山古墳出土の張氏・張是・王氏鏡の同環鏡の話である。

ここで原典の「椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡」(京都大学文学部考古学教室編集、思文閣出版、平成元年 1989 年)が三角縁神獣鏡について述べていることを見てみる。

『三角縁神獣鏡の系譜については梅原末治が浙江省紹興から多数出土した画像鏡との関連を早くから指摘していた。三角縁神獣鏡は後漢鏡の系譜をひき、中国の年号、製作者名を記した銘文をもつにもかかわらず、中国からは 1 面も出土していない。その事実と神獣鏡は魏と敵対関係にあった呉の地域に多い型式であることを出発点とし、王仲殊は呉の工人が海をわたって日本列島で製作したと論じた(王 1981)。ことに 1986 年、京都府広峯 25 号墳から景初 4 年という実在しない紀年をもつ鏡が出土したことは、富岡にはじまり、ほぼ定説となっていた三角縁神獣鏡＝魏鏡説を批判する有力な根拠となった。(王 1987)。しかし魏の年号と地名を記した銘文があることは動かしがたく、神獣鏡の諸形式がすべて呉の地域に限られるわけでもない(棒線：筆者)。非常に重要な問題提起であるが、魏鏡説を完全につき崩すまでにはいたっていない。(樋口 1987、近藤喬一 1988、岡村 1989)。』

この文章は、中国から三角縁神獣鏡が 1 面も出土していない理由を説明していない。あのような多数の

三角縁神獸鏡（三角縁神獸鏡は余りに沢山あるために、全部が中国製だとさすがにいえず、一部は日本の国産品であるといっているが）が中国で生産され、中国に全く残っていないというのは、ありえないことである。これは特鑄したからだというのである。特鑄とは特別に、中国に残さないで、秘密に作ってくれと頼んだということなのか。しかし、そんなことができるわけがないのである。製作地からも運ぶ道中からも一枚も漏出しないということはあるえないことである。

さらに、棒線の部分の、魏に年号と地名があるからというのはなんの証拠にもならない。中国人工人が渡来したのであれば、楽々どこなせることである。魏の年号と地名は、三角縁神獸鏡が中国製であることを民衆に見せるための偽装であるのが真実である。これに、後世の考古学者もだまされているのである。

したがって、その当時は、中国製で通じたのであろう。またそのように、製作者も工夫したのである。しかし、後半では次第にバレてきた。三角縁神獸鏡は、棺外の粗末なところに置かれるようになる。

三角縁神獸鏡が呉の様式ではないから、渡来工人はいなかったという説明も、渡来工人は呉以外から来たとすれば、すんなり解決されるのである。ここは王仲殊氏が間違っているのである。呉からの渡来が間違っているから、渡来そのものが間違っているというのは論理的ではない。本当は、本論で述べているように河北省（河北省出土の魏晉鏡、史林、2000年に述べられている特異な規矩鏡群の出土地 p130）あたりから渡来したのである。

このように、原典で述べられている論理は完全に破綻している。これを（つきくずすまでには至っていない）完全には破綻していないと強弁するのは学問的に如何なものであろうか。

348 黒塚 13 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡（鏡径 218 mm）の同環鏡

黒塚古墳でも張氏・張是・王氏作品が多くある。それらは以下のようなものである。

336 黒塚 1 号張是作銘三角縁銘帯 5 神 4 獸鏡（鏡径 229 mm）

348 黒塚 13 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡（鏡径 218 mm）

351 黒塚 16 号張氏作銘三角縁銘帯 3 神 5 獸鏡（鏡径 227 mm）（353 黒塚 18 号と同範）

353 黒塚 18 号張氏作銘三角縁銘帯 3 神 5 獸鏡（鏡径 226 mm）

355 黒塚 20 号王氏作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡（鏡径 223 mm）

356 黒塚 21 号張氏作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡（鏡径 237 mm）

361 黒塚 26 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡（鏡径 218 mm）

367 黒塚 32 号王氏作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡（鏡径 223 mm）

その中で、

348 黒塚 13 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡（鏡径 218 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。348

の同環鏡は多い。348は張是作銘であるので作者が分かっている。張是は張氏と同じ年代で、211久保惣記念美術館蔵泰始9年(273年)銘鏡の作者の張氏と同年代と考えられる。張氏・張是は陳是・陳氏の鏡の鋸歯文を踏襲したので、陳是作品や中国の後漢鏡と同環となった。

表 7-9 348 黒塚 13 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡 (鏡径 218 mm) の同環鏡

348 黒塚 13 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡 (鏡径 218 mm) の同環鏡 (環径 180, 165, 153, 115mm)				
通し番号	略称	鏡径 (m m)	同環の環 径 (mm)	出土地
4	前橋三角縁 4 神 4 獣鏡	215	165	
5	へボソ塚三角縁 3 神 2 獣鏡	217	180	
14	新山西王母三角縁神獣鏡	226	180	
21	安満宮山 5 号平縁「陳是作」同向式神獣鏡	176	153	
37	岐阜長塚三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	216	115	
70	京都百々ヶ池三角縁 2 神 2 獣鏡	224	115	
87	大阪黄金塚三角縁波文帯盤龍鏡	245	180	
127	岡山鶴山丸山変形方格規矩 4 神鏡	170	115	
150	群馬三本木斜縁 2 神 2 獣鏡	154	115	
181	福岡立岩方格規矩鏡	200	153	
216	沖ノ島三角縁 2 神 2 獣鏡	222	すべて	
240	鴨都波②斜縁波文帯 2 神 4 獣鏡	207	115	
241	鴨都波③斜縁波文帯 3 神 3 獣鏡	214	153	
262	聖仏鏡円圈規矩鳥文鏡	155	115	中国
289	国分茶白山青蓋作銘盤龍鏡	139	115	
290	雪野山三角縁唐草文帯 4 神 4 獣鏡	242	180	
301	椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獣鏡	226	115	
314	椿井大塚山 20 吾作 3 神 5 獣鏡	225	153, 115	
322	椿井大塚山 28 張是作 4 神 4 獣鏡	218	すべて	
341	黒塚 6 号陳是作銘三角縁銘帯 4 神 4	220	180, 153	
342	黒塚 7 号陳是作銘獣帯 4 神 4 獣鏡	223	165	
343	黒塚 8 号三角縁神人龍虎画像鏡	223	180	
349	黒塚 14 号三角縁画文帯 6 神 3 獣鏡	218	180	
351	黒塚 16 号三角縁銘帯 3 神 5 獣鏡 (353 と同 范)	227	115	
352	黒塚 17 号三角縁波文帯盤龍鏡	247	180	
353	黒塚 18 号張氏作銘帯 3 神 5 獣鏡 (351 と同	226	153, 115	

	范)			
358	黒塚 23 号三角縁銘帯 3 神 5 獣鏡	219	115	
361	黒塚 26 号三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡	218	180	
375	福岡原口三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	219	180	

表 7-10 348 黒塚 13 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡（鏡径 218 mm）の同数鏡

348 黒塚 13 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡（鏡径 218 mm）の同数鏡 （環径 180, 165, 153, 115mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
52	兵庫女塚三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	221	165	
83	奈良宝塚三角縁対置式神獣鏡	218	165	
107	新山変形方格規矩鏡	243	180	
166	永平 7 年（64 年）尚方作獣帯鏡	190	165	中国
185	新山尚方作三角縁神獣鏡	223	165	
198	黒塚神仙龍虎画像鏡（343 と同じ）	223	180	

348 の具体的データを以下に示した。

(348, 341)

陳是作銘の 341 が 2 環で同環である。

張是はおそらく 341 を手本にしたのだろうが、巧拙に違いがあるようには見られない。

張是は陳是より図像が大きいようである。

(348, 341)の形状比と底辺長

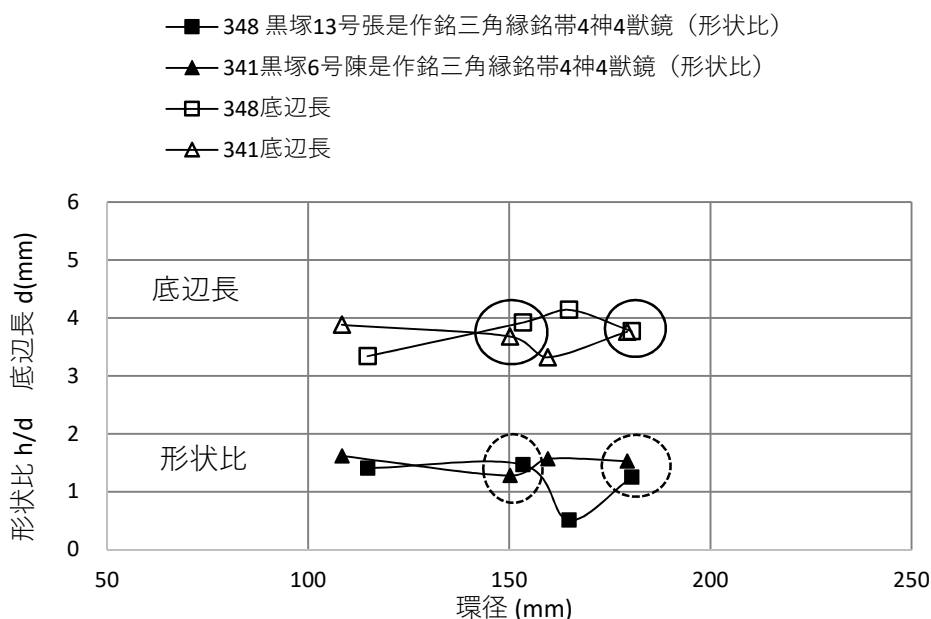


図 7-6 (348, 341)の形状比と底辺長

351 黒塚 16 号張氏作銘三角銘帯 3 神 5 獸鏡（鏡径 227 mm）の同環鏡

351 黒塚 16 号張氏作銘三角銘帯 3 神 5 獸鏡（鏡径 227 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

351 は同環鏡が多数ある。

351 は張氏作銘であるから、後期の三角縁神獸鏡である。

張氏は陳是・陳氏の鋸歯文に倣ったため、多くの陳是・陳氏鏡と同環となった。

張氏は陳是銘鏡の 93、95 から 185 mm と 165 mm の鋸歯環を採ったので、172 の石氏作の後漢鏡と自動的に同環となった。154 mm の鋸歯環は陳是作品である 11 前橋三角縁 5 神 4 獸鏡に倣った。116 mm の鋸歯環は、陳是作鏡に倣ったので、262 聖仏鎮鏡と同環となった。

表 7-11 351 黒塚 16 号張氏作銘三角銘帯 3 神 5 獸鏡（鏡径 227 mm）の同環鏡

351 黒塚 16 号張氏作銘三角銘帯 3 神 5 獸鏡（鏡径 227 mm）の同環鏡 （環径 185, 161, 154, 116mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
4	前橋三角縁 4 神 4 獸鏡	215	161	
5	へボソ塚三角縁 3 神 2 獸鏡	217	161	
11	前橋三角縁 5 神 4 獸鏡	223	154	
14	新山西王母三角縁神獸鏡	226	185, 161, 154	

48	岡山鶴山丸山三角縁3神2獣鏡	236	116	
53	岡山花光寺山三角縁獣文帯3神3獣鏡	218	161	
70	京都檜原百々ヶ池三角縁2神2獣鏡	224	185, 161, 116	
82	岡山車塚三角縁画文帯5神4獣鏡	220	161	
93	岡山車塚陳氏作三角縁2神2車馬鏡	222	185, 165	
95	山梨銚子塚陳氏作神獣車馬鏡(93と同範)	221	185, 165	
127	岡山鶴山丸山変形方格規矩4神鏡	170	116	
150	群馬三本木斜縁2神2獣鏡	154	116	
154	兵庫笹倉龜山同向式画文帯神獣鏡	148	116	
172	石氏作永元3年(91年)画像鏡	250	185	中国
185	新山尚方作三角縁神獣鏡	223	161	
216	沖ノ島三角縁2神2獣鏡	222	116	
240	鴨都波②斜縁波文帯2神4獣鏡	207	116	
262	聖仏鎮円圈規矩鳥文鏡	155	116	中国
294	雪野山しん出銘三角縁4神4獣鏡	242	185	
301	椿井大塚山張氏作3神5獣鏡	226	すべて	
303	椿井大塚山9獣文帯4神4獣鏡	234	185	
312	椿井大塚山18画文帯5神5獣鏡	218	161, 154	
313	椿井大塚山19吾作4神4獣鏡	226	161	
314	椿井大塚山20吾作3神5獣鏡	225	すべて	
315	椿井大塚山21吾作3神5獣鏡	215	161	
326	西求女塚2号吾作三角縁4神4獣鏡	224	185, 161	
327	西求女塚3号三角縁3神5獣鏡	225	すべて	
340	黒塚5号三角縁5神4獣鏡	225	154	
347	黒塚12号三角縁銘帯4神4獣鏡	218	154	
350	黒塚15号三角縁獣帯4神4獣鏡	222	154	
353	黒塚18号張氏作三角縁銘帯3神5獣鏡(351と同範)	226	すべて	
361	黒塚26号張是作銘三角縁銘帯4神4獣鏡	218	161, 154	
363	黒塚28号三角縁獣帯4神4獣鏡	225	161	
374	福岡那珂三角縁5神4獣鏡	218	116	

表 7-12 351 黒塚 16 号張氏作銘三角縁銘帯 3 神 5 獣鏡 (鏡径 227 mm) の同数鏡

351 黒塚 16 号張氏作銘三角縁銘帯 3 神 5 獣鏡（鏡径 227 mm）の同数鏡 （環径 185, 161, 154, 116mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
21	安満宮山 5 号陳是作平縁同向式神獣鏡	176	154	
37	岐阜長塚三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	216	185	
52	兵庫女塚三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	221	185	
181	立岩方格規矩鏡	200	154	
241	鴨都波③斜縁波文帯 3 神 3 獣鏡	214	154	
298	椿井大塚山 4 櫛波紋帯 4 神 4 獣鏡	221	154	
299	椿井大塚山 5 櫛波文帯 4 神 4 獣鏡	221	154	
366	黒塚 31 号三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡（347 と同範）	220	185	

351 の具体的データを以下に示した。

(351, 93)

陳氏作銘の 93 が張氏作銘の 351 と同環である。張氏は鋸歯文だけ陳氏のものを借用したのである。

(351, 93)の形状比と底辺長

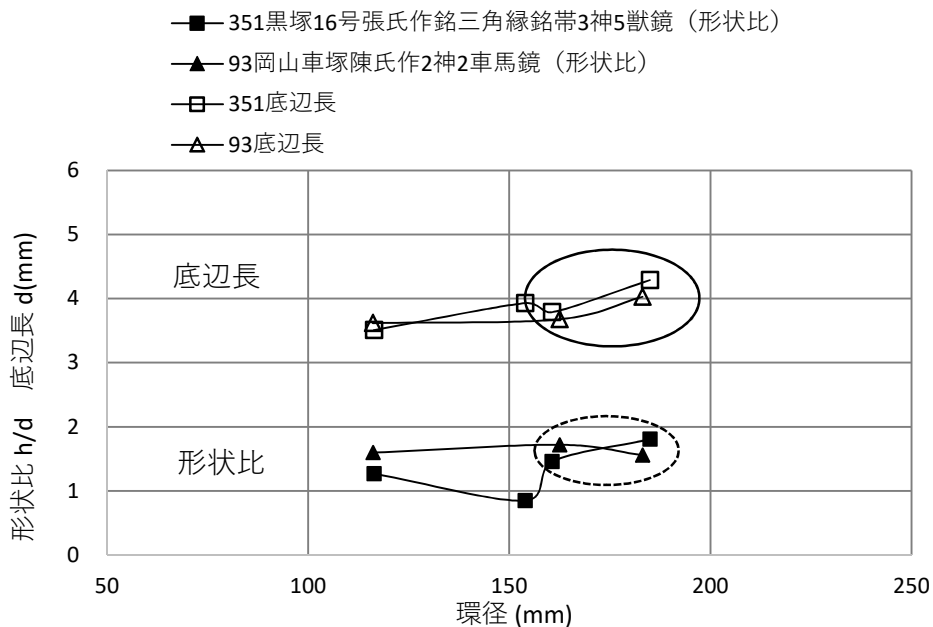


図 7-7 (351, 93)の形状比と底辺長

355 黒塚 20 号王氏作三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡（鏡径 223 mm）の同環鏡

355 黒塚 20 号王氏作三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡(鏡径 223 mm) の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

355 は王氏作銘である。355 も同環鏡は多い。

355 の作者の王氏は、後期の張是、張氏と同時代であろうから、多くの三角縁神獣鏡の鋸歯環を採用した。その結果多くの三角縁神獣鏡と同環となった。

王氏は 355 ですべての鋸歯環の形状比を 1 とした。これは、後期の鏡で、鋸歯環を簡素化したのである。

表 7-13 355 黒塚 20 号王氏作三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡(鏡径 223 mm) の同環鏡

355 黒塚 20 号王氏作三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡(鏡径 223 mm) の同環鏡 (環径 189, 159, 149, 122mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
14	新山西王母三角縁神獣鏡	226	149	
23	上平川三角縁同向式神獣鏡	232	122	
26	安満宮山 3 号鏡三角縁獣文帯 4 神 4 獣鏡	225	159	
49	兵庫親王塚三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	215	159	
55	神奈川大塚山陳氏作三角縁 4 神 2 獣鏡	221	159	
57	岡山車塚陳是作三角縁 4 神 2 獣鏡	220	159	
58	鳥取馬の山三角縁 3 神 2 獣鏡	216	159	
79	岡山車塚三角縁獣文帯 4 神 4 獣鏡	236	122	
155	八尾郡川画像鏡	206	159	
224	東京亀塚神人歌舞画像鏡	208	159	
239	鴨都波①斜縁 2 神 4 獣鏡	185	122	
285	椿井大塚山三角縁神獣鏡 (3 と同じ)	233	122	
301	椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獣鏡	226	159	
302	椿井大塚山 8 獣文帯同向式神獣鏡	234	189	
303	椿井大塚山 9 獣文帯 4 神 4 獣鏡	234	122	
304	椿井大塚山 10 獣文帯 4 神 4 獣鏡	233	122	
313	椿井大塚山 19 号三角縁銘帯 4 神 4 獣 (14 と同 範)	226	149	
319	椿井大塚山 25 獣文帯 2 神 2 獣鏡	220	159	
324	椿井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡	184	159	
326	西求女塚 2 号三角縁 4 神 4 獣鏡	224	149	
336	黒塚 1 号張是作三角縁銘帯 6 神 4 獣鏡	229	159	
337	黒塚 2 号三角縁獣帯 4 神 4 獣鏡 (362、368 と同 範)	238	122	
356	黒塚 21 号張氏作銘三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡	237	159	
362	黒塚 27 号三角縁獣帯 4 神 4 獣鏡 (337、368 と同 範)	234	122	

368	黒塚 33 号三角縁獣帯 4 神 4 獣鏡 (337、362 と同 範)	237	122	
371	佐賀谷口三角縁 3 神 3 獣鏡	216	189	

表 7-14 355 黒塚 20 号王氏作三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡(鏡径 223 mm) の同数鏡

355 黒塚 20 号王氏作三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡の同数鏡 (環径 189, 159, 149, 122mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
70	京都百々ヶ池三角縁 2 神 2 獣鏡	224	159	
91	景初 3 年 (239 年) 銘大阪黄金塚画文帯同向式神 獣鏡	233	159	

355 の具体的データを以下に示した。

(355, 336)

張是作銘の 336 が王氏作銘の 355 と同環である。両者は同一工房と考えられる。王氏も張是、張氏とともに渡来したのである。

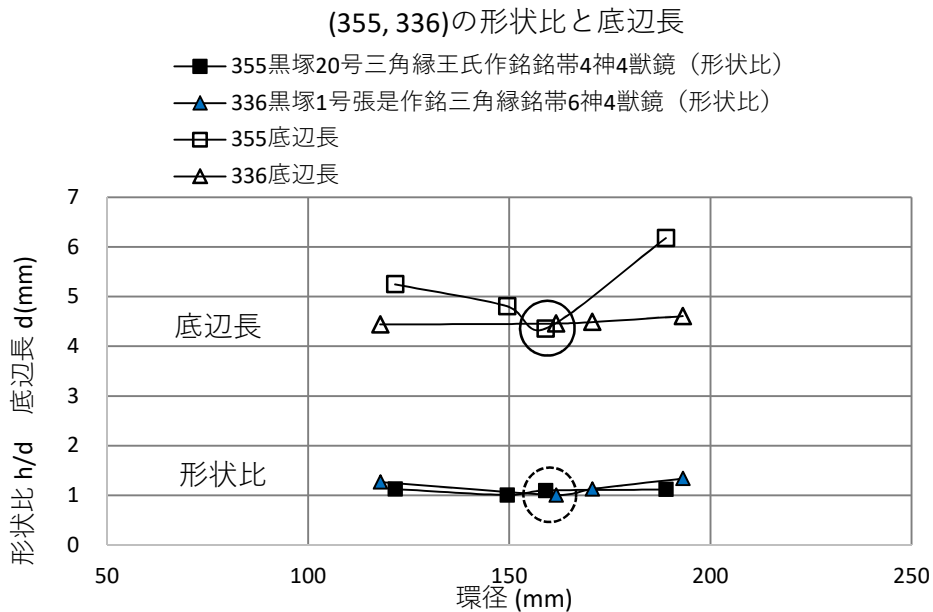


図 7-8 (355, 336)の形状比と底

このように、張氏、張是、それに加えて王氏銘鏡は、鏡の大量出土古墳である椿井大塚山古墳と黒塚古墳に集中している。彼らは泰始 9 年 (273 年) 銘鏡を製作したのち、日本に渡来した。大和朝廷が、陳是・陳氏の後継者として招聘したのである。彼らは陳是・陳氏の作風に習うとともに、鋸歯文も正確に継承した。それらの結果、彼らの作品は陳是・陳氏作品と同環となった。これは、我々にとっては、陳

是・陳氏作品と張氏・張是作品の区別を困難とするのでありがたいことではないが、致し方ない。ただ、陳是・陳氏鏡も張氏・張是鏡も大和朝廷が諸侯の鎮撫のため全国に配布した事実は変わらない。張氏・張是は陳是・陳氏の伝統を守って鏡の製作を継続したが、鏡の需要は徐々に下火となった。それは、邪馬台国が大和朝廷側の攻勢によって、だんだん衰微し、ついには消滅したからである。その邪馬台国の消滅の時期は266年の壺与の晋への遣使のあとであり、張氏・張是の活動期間を泰始9年(273年)からの20年と見積もって、290年頃までと考えられる。張氏・張是の活躍の後半には、銅鏡はだぶつき、大和近郊の豪族に無理やり押し込んだのであろう。その頃には、三角縁神獸鏡が、渡来中国人工人が作った日本製であることが、広く知られ、後に古墳に埋葬されるようになると、黒塚古墳のように真正の中国鏡は棺内に、多数の三角縁縁神獸鏡は棺外に置かれる差別待遇をうけるようになったのである。

邪馬台国は九州で、三角縁縁神獸鏡が配布されていない古墳の存在する地域であるという論理で、それが、江田船山古墳であるとしたが、江田船山古墳には、鉄剣が発見されている。その鉄剣は、刻まれた銘によって、21代雄略天皇の時代とされている。これは、再統一を果たした10代崇神天皇から200年くらい後と考えられる。井上光貞 神話から歴史へ p401に、雄略天皇は478年、479年、502年と3回にわたって南朝に貢したとある。

鉄剣を付与された意味は、最後まで大和朝廷に抵抗した地で、その後200年にわたって大和朝廷に無事帰属して来た豪族の実績に対して特別に贈られたものであろう。大和以西で江田船山地域だけ、唯一鉄剣が贈られた事実は、そこが、特別な地域であることを示している。すなわち、大和朝廷に反抗した邪馬台国の跡地であったのである。

この鉄剣は埼玉の稲荷山古墳にも贈られている。それはどうしてであろうか。稲荷山も三角縁神獸鏡が出ない古墳である。稲荷山古墳では、237稲荷山画文帯環状乳神獸鏡が発見されているのみである。関東地方では、稲荷山古墳よりも奥地では、前橋天神山古墳などで三角縁神獸鏡は多く発見されている。

「三角縁神獸鏡研究事典」(下垣仁志著 吉川弘文館 2010年)に三角縁神獸鏡出土地地名表が出ており、そのなかで、神奈川、千葉、茨木、群馬では三角縁神獸鏡が出土していることが示されているが、埼玉だけは欠落している(p498~502)。

同一の著者の日本列島出土鏡集成(下垣仁志 同成社 2016年)では、埼玉県では東松山市の高坂古墳群から陳氏作三角縁4神2獸鏡(鏡径220mm)が出土しているとある(同上p30)。1面だけ埼玉県でも三角縁神獸鏡が出土していることになるが、東松山と稲荷山の行田では距離が多少ある。東松山までは大和朝廷の勢力が及んでいたことになる。

すなわち、関東地方では稲荷山だけ三角縁神獸鏡がなく、かつ雄略天皇の鉄剣が発見されているのである。これの意味するものは何か。すなわち、関東の埼玉地方にも、邪馬台国と同様に、神武建国時に服属しなかった部族がいたのである。その部族も邪馬台国と同時期に滅亡した、そのときは、邪馬台国のように魏に援助を求めるような派手なことが地理的にできなかったため、歴史の表舞台に出ることができず、消滅したのである。その後新たな部族によって支配され、その治世の功績をめでて、江田船山古墳と同様に鉄剣が贈られたと考えられる。江田船山古墳と稲荷山古墳は三角縁神獸鏡が出ないことと、鉄剣を贈られたことが共通しており、運命も共通しているのである。

黒塚古墳出土の三角縁神獸鏡について原典：黒塚古墳調査概報、(奈良県橿原考古学研究所編、学生

社、1999年)に次のように述べられている。

『三角縁神獣鏡の中で、私たちが中国製の舶載品とってきた類は、その作柄が中国鏡とまったく同じであり、神仙思想に出てくる仙人や靈獣の図文や押韻の詩文体をなす銘文など、中国人でなければ作れないタイプであるからである。』(p79)

『長江付近では銅山が分布しており、銅出徐州は現実であって、決して架空の話ではない。また洛陽の「洛」の字は魏晉以後に用いられたこと、すでに富岡謙蔵氏が大正年間に指摘しておられる。』(p79)

『したがってこの句から三角縁神獣鏡が三国時代、華北で造られたことは明らかで、到底当時の日本で作りうるような文章ではないのである。』(p79)

『同型鏡は戦国鏡から唐鏡まで存在するが、同じグループの鏡で、これほど同型鏡が多いのは三角縁神獣鏡以外には見られない。同型鏡は同じ種類の鏡を多数作れるという利点がある。同型鏡多いということは、この類の鏡の需要が特に高かったために大量生産されたということである。』(p80~81)

『このことは、邪馬台国の女王卑弥呼が魏王から銅鏡100面を賜ったという魏書東夷伝の記事と合致する。そのため卑弥呼がもらった銅鏡百面がどれかという点に興味が集まり、それが三角縁神獣鏡であったかという議論が世の関心を高めている。しかし魏書の記事は当時の日本の世相を反映しているだけであって、当時日本には卑弥呼のもらった百面の鏡しかなかったかという点、決してそうではない。中国製の神獣鏡が大量に流行していたことを暗示しているのである。(p81)』

『舶載の三角縁神獣鏡をみると、370数面が西は宮崎から東は群馬県まで分布している。(p81)』

以上の文章は樋口隆康記すとなっている。この本は1999年の出版であるから、1989年出版の先の「椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡」よりも後である。しかし、ここではもう、王仲殊氏の中国人工人渡来説や中国で三角縁神獣鏡が1面も発見されていない事実は黙殺されている。銘文が日本人には書けないという事実だけが強調されている。その通りである。日本人には書けない、中国人の渡来工人が書いたのである。日本人には書けないことの唯一の解が、「だから中国製だ」とはならないのである。「それは渡来中国人工人が日本で書いたのである」という解も成り立つのである。

魏王が授けた銅鏡は100面であるとしたら、原典のいう日本国内にある舶載と呼んでいる370面の鏡はどうなるのであろうか。卑弥呼の使節以外のヤミのルートで日本国内に入って来たと言及するが、それでは、卑弥呼が中国に1面も残さずに、秘密に特鑄させたという仮説はどうなるのであろうか。ヤミのルートがあって、その源が中国であれば、中国に三角縁神獣鏡が残っているはずである。

このように樋口氏は、三角縁神獣鏡は俗に言えば、「ヤミで流通した」と言っている。それは、魏鏡論者いつている「特鑄」したという話と違うのではないか。

370面もの三角縁神獣鏡がヤミのルートで日本に入ってきたとすれば、中国にその痕跡が残っているはずである。しかし、その痕跡はまったくないのである。結論は簡単である。三角縁神獣鏡は、卑弥呼がもらった100枚の中にも入っておらず、中国からヤミルートで入って来てもいないのである。三角縁神獣鏡は陳是・陳氏の中国人工人が河北省から渡来し、大和で作りまくったものである。

王仲殊氏がいった「呉の工人が渡来した」というのは誤りであるから、渡来人説は誤りであるというのが学界の見解であるが、理論的にはそうはならない。渡来人は、前報に示したように河北省から来たの

である。河北省には、三角縁神獸鏡の前身ともいべき「特異な規矩鏡」があることは学界もすでに認めていることである。

また前述の樋口氏の文献では、三角縁神獸鏡の同型鏡が多いとも言っている。『同型鏡は同じ種類の鏡を多数作れるという利点がある』と言っているが、それは間違いである。本来鑄物は同型があるのが当然なのである。鑄物では、作りたいものの形状を普通は木で作る。これを木型（モデル）という。これを砂に埋めて、雌型の鑄型を作る。これに溶かした金属を注入して、固めて鑄型をこわして製品を得る。鑄型は毎度壊れるが、木型で何回も同じ製品を作ることができる。古代人も、同じモデルで同じ鏡（同型鏡）を作ったのである。このとき、わずか1面しか作らない場合もあるだろうし、数面、数十面作ることもあるだろう。それは製作者の意図次第である。三角縁神獸鏡は、全国の、できるだけ沢山の諸侯に配布するのが目的であったので、同型鏡をたくさん作ったのである。邪馬台国討伐のための味方作りが目的であったからである。ここでいう同型鏡は、今まで使ってきた同範鏡という言葉と同じ意味である。同型鏡というと、文様の型式が同じ鏡ととられるかもしれないので、我々はあえて同範という言葉を使ったのである。

前報と本報で説明したように、2世紀に神武天皇の東征があり、大和朝廷が創設されたが、すぐ出身地の九州で反乱があり、邪馬台国が生まれ、それを討伐するために、お雇い外国人の陳是・陳氏を招いて、銅鏡の配布作戦を行い、なんとか邪馬台国を討伐して再統一を果たしたストーリーはなにか既視感があるような気がする。

最後に、江田船山と稲荷山に鉄剣を贈った雄略天皇の人となりを示す例を紹介する。西尾氏は
国民の歴史 西尾幹二 新しい歴史教科書をつくる会編 扶桑社 平成11年（1999年）で次のように述べている。

『万葉集』の巻一の一。いちばん最初にでてくる歌である。

籠もよ も籠持ち 堀串もよ み堀串持ち、この岡に菜つます子。家宣らへ。名宣らさね。

空見つ大和の國は、おしなべて吾こそ居れ。しきなべて吾こそ坐せ。吾こそ宣らめ、家をも名をも

[訳] 籠や、籠や。その籠や、籠をもって、この岡で菜を摘んでみなさる娘さんよ。家を仰つしやい。

名をおつしやい。此大和の國は、すっかり天子として、私が治めて居る。

一體に治めて私が居る。どれ私から言い出さうかね。私の家も、名も。【折口信夫『口譯萬葉集』】

これは雄略天皇の御製とされており、したがって5世紀の天皇であるから、奈良の都とはじかには関係

はない。

天皇が春の野遊びをしている場面である。若い可愛らしい女の子が菜を摘んでいるので、その子ども、あるいは若い女性に天皇自らが声をかけている、そういう場面である。「あなたの名前を告げなさい、私のほうこそ名を名乗りましょう。あなたも名前と家を名乗ってください」と、天皇が春の野遊びで呼びかけている、ほほえましい歌である。

折口信夫は右の歌について、古代において皇室がいかに簡易生活をしておられたかが、この御製で拝することができる。ことに素朴放胆でいられた雄略帝の御性格は、われわれの胸に生きた力をもたらすという意味の言葉を書き加えている。(p 226~227)

雄略天皇の聡さがうかがえる歌である。雄略天皇はかつて治世に問題があった地点に鉄剣を贈り、その功にむくいた。それによって、後世の我々に、邪馬台国の所在地の手掛かりを与えてくれた。

また、この文の作者の西尾幹二氏は、先にも述べたように、厥史 8 代について、古事記の編者が讖緯説に合わせようと仮想の天皇を作らずに各天皇の寿命を異常に伸ばしたと推測し、それゆえに、8 代の天皇の存在をかえって確実にしているという卓見を述べられている。西尾氏の最近の訃報を聞いた。御冥福をお祈りしたい。

8 結論

- (1) 景初 3 年 (239 年) 以降大和朝廷は三角縁神獸鏡を全国に配布し味方作りを行い、九州の離反勢力である邪馬台国への圧迫を強めていた。
- (2) 三角縁神獸鏡は九州の古墳からも多数出土する。それらの三角縁神獸鏡は大和朝廷が全国的に配布したものと同種のものである。大和朝廷は九州においても味方作りを行った。
- (3) 三角縁神獸鏡は邪馬台国など離反勢力には配布されなかったであろうから、九州の古墳で三角縁神獸鏡が出ていない古墳があればそこが邪馬台国であると考えられる。
- (4) その条件に合致するのは、唯一、江田船山古墳である。江田船山古墳は、博多湾の海岸からやや離れており、魏志倭人伝の記述とも雰囲氣的に一致する。江田船山古墳の地域が邪馬台国の所在地である。
- (5) 吉野カ里遺跡は、最後大和朝廷が武力で邪馬台国を滅ぼしたときの前線基地であったと考えられる。
- (6) 張氏・張是・王氏などの中国人工人が陳是・陳氏の後を継いで渡来してきた。それは、張氏作銘の泰始 9 年 (273 年) 銘鏡の 273 年直後の時期である。その後 20 年程度の間、三角縁神獸鏡などを作り続けたが、後半は供給過剰となり、大和の豪族に押し込まれた。その結果、椿井大塚山古墳や黒塚古墳で大量の三角縁神獸鏡が発見されることになる。
- (7) 銅鏡が供給過剰となったのは、邪馬台国が滅亡し、鎮撫のための銅鏡を全国に配布する必要がなくなったためである。したがって邪馬台国の滅亡時期は張氏たちの活動時期の 270 年代から 290 年代の間と考えられる。これは、崇神天皇の在任時代の推定と一致する。神武建国以来

分裂していた日本国が再統一され、崇神天皇は、神武天皇以来の二人目のハツクニシラスマ
ラミコトとなったのである。

- (8) 邪馬台国の滅亡後、江田船山地域は親大和朝廷の政権が続きよく治まったので、その 200 年後
(5 世紀後半) の雄略天皇によって、特別に鉄剣が授けられた。
- (9) 埼玉稲荷山古墳でも、同様の鉄剣が授けられた。この古墳でも三角縁神獣鏡が見つかっていな
い。この地方でも、江田船山地域と同様な事態があったのであろう。

以上

著者略歴

前 義治 (まえ よしはる)

1943 年生まれ

1966 年 東京大学工学部卒

国内非鉄金属メーカー勤務 工博

日本金属学会技術開発賞

日本原子力学会論文賞

米国金属学会誌 JMEP Editor's Choice

金属に関する論文多数

主な著書：銅とアルミニウムのおはなし (日本規格協会)

周期表を図にすると (ブイツーソリューション)

Solving the Mysteries of the Solid Elements (Cambridge Scholars Publishing)

青銅鏡の鋸歯文の探求と卑弥呼の謎 (ブイツーソリューション)、

古代青銅鏡の DNA=鋸歯文 (ブイツーソリューション)

田岸昭宣 (たぎし あきのり)

1943 年生まれ

1966 年 東京大学工学部卒

国内重電機メーカー勤務 工博

前義治との共著：青銅鏡の鋸歯文の探求と卑弥呼の謎 (ブイツーソリューション)、

古代青銅鏡の DNA=鋸歯文 (ブイツーソリューション)